

新たなコミュニティがつなぐまちづくり



(雲の上はいつも晴れ)

■事業が目指すところ

2023年より、芳田自治協議会が空き家となっていた旧公民館の利活用のため、田舎お試し移住や、農村体験の宿泊施設との活用と日常的な地域交流施設にするため、多様な関わりや、地域のにぎわいづくりの場として活用していきたいとの考えから当法人と連携し運営を行っている。地域の中にこの場ができたことで、あらゆる活動が見えるかたちになり、地域の居場所になってきている。誰でも参加できる場所、きっかけを作れる場所として、関係人口を繋ぎながら、地域住民と一緒にコミュニティ作り上げていく

■事業内容

- みんなの図書館
西脇市図書館より毎月30冊～50冊を用意
・読みきかせ 6月14日
- 西脇市元気応援カフェ開催
健康体操 おりひめ体操
・毎週月曜日13:30～
・12月8日 認知症予防講演会 開催
- 6月14日 全国一斉レモネードスタンド
・25日 ベビーマッサージ
・7月23日 お話し会
・9月20日 暮らしを楽しむ秋マルシェ
・2月7日 西脇でもっと楽しく子育て議員さんと座談会
・15日 春まちお散歩マルシェ
- ポン菓子／こども食堂
・4月15日 ・6月14日
・9月20日 ・10月28日
・11月12日 ・12月21日
・1月11日 ・1月25日
・2月15日
- 広報誌の発行
芳田地区全戸配布



■成果と課題

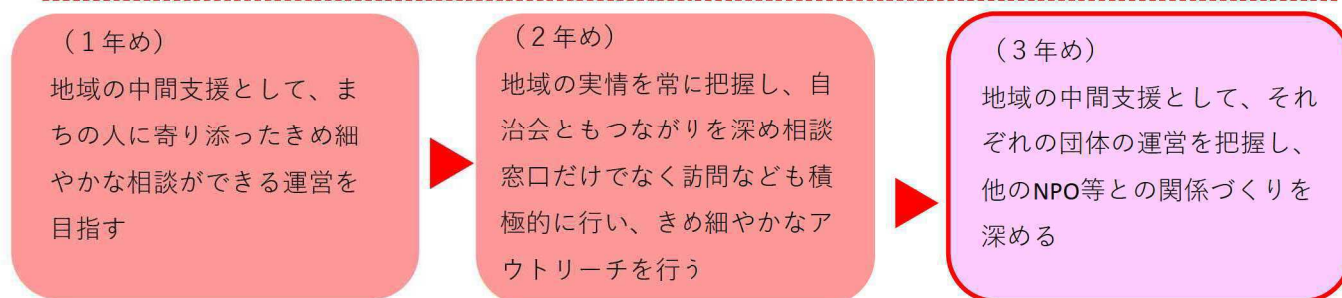
昨年から引き続き、旧水尾町公民館を活用した事業は、関係人口の創出だけでなく、地域住民が関わる場、つながる場を他の団体と連携しながら作っていくことができた。日常的に施設を利用しやすい環境を整えることは、人と地域がお互いに支え合える関係を築ける活動になる。小さなまちが抱える課題を解決できるコミュニティづくりを目指し、芳田自治協議会と連携しながら、多様な人が繋がり、それぞれの役割を活かした事業が展開できた。人口減少や高齢化など、迫りくる大きな課題があるなか、今できることを地域住民だけでなく、NPOや他の団体と一緒に頑張ってまちづくりに関わり、ちいさなコミュニティを作っていくことが大切である。小規模な中間支援の役割がここにあると考え、しっかりと1年の事業を行うことを大切に、地域に小さなコミュニティができること、その役割の必要性を今後、他地域へも届けていきたい



つながるこのまち事業（3年め）

■事業が目指すところ

西脇市内では、市民活動や地域の活動が高齢化や、担い手不足になっている。それらを解決していくために、私たちは、暮らしにまつわる地域の課題を解決したいと自ら行動しようとする人や、団体をサポートする中間支援が必要だと考えている。さらに、NPOの活動と自治会が繋がり新たなコミュニティを作り、より地域に近い中間支援が必要になってきた。それぞれが智恵を出し合うことで活動を継続させる力となると考えている。そのようなNPO活動、市民活動をサポートする場、繋がる場が必要だと考え、この事業に取り組んでいる。



■3年め活動報告

○創設支援3年目となる今年度は、さらに地域や他団体との連携を深め、地域交流施設「旧水尾町公民館」を拠点に地域の中に誰もが参加できる場所があること、その場が地域のにぎわい作りになることで、他団体との連携を深め、地域交流施設「旧水尾町公民館」を拠点に活動することができた。

- ▶ NPO・市民活動団体、個人のサポート / 相談件数 27件（面談・電話・メール）
- ▶ 話せる場と居場所、活動ができる場としての運営を開始（年間 34 回実施）
- ▶ 集いの場の提供（年間 25回 実施）
- ▶ 訪問 一般社団法人ルーナ 単独型短期入所施設さんくすういる（三木市）
なおみ助産院（三木市）
みんぐる（西脇市）

○地域の未来を考える

「女性に選ばれるまちとは」

秋の西脇市議会選挙、多可町議会選挙を考える

- | | | |
|----------------|------|-------------------------|
| 4月6日（日）10：30～ | ／ 場所 | 旧水尾町公民館（参加者5名） |
| 6月8日（日）15：00～ | ／ 場所 | 西脇市黒田庄町 ガーデンログハウス（5名参加） |
| 8月17日（日）13：00～ | ／ 場所 | 旧水尾町公民館（参加者6名） |

○市民活動の運営サポート（2件）

- ・市民活動団体「れもんの木」助成金申請の相談
- ・市民活動団体「大門子ども食堂」助成金、補助金の申請相談
- ・市民活動の相談（空き家活用方法、NPO設立相談）

○自治会との連携事業

- ・芳田自治協議会主催の行事に参加
（芳田ふれあいフェスタ）
- ・黒田庄町大門とんど祭りに参加

○アンケート実施

- ・相談時、会場使用時などに利用者アンケートを実施

■成果と課題

今年度は西脇市議会選挙、多可町議会選挙と身近な選挙があり、暮らしの課題に敏感である女性たちの活躍がみられ、より政治に関心をもつ人たちが増えることを期待していたが、投票率も低く市民の関心はあまりないように思われた。また、自分たちでネットワークを広げ、活発に活動する人たちが増え、それらはSNSなどを使い、情報を集め、仲間を集めている。私たちの関わり方も変わってきているように感じた。昨年より旧水尾町公民館を地域交流施設として運用しながら事業を行うことが出来たが、地域の中で気軽に立ち寄れる場所がもっと必要であると思う。若い世代の方はSNSで繋がりを作っていけるが、自宅にいる高齢者こそ、もっと安全に安心して心豊かに暮らせるまちにするために、小さなコミュニティがもっと必要であると思う。今後も色々な地域に小さなコミュニティができれば、地域の方々を支援していきたい。

私たちができる小さな循環

「CYCLE COMPOST& バイオネスト」



(特活) あしや NPO センター

本事業が目指すところ

芦屋市におけるごみ処理の変化を契機に、市民生活における資源循環のあり方を考える場を創出することを目的とする。あわせて、「CYCLE COMPOST」の取り組みを発展させ、落ち葉や剪定枝等の結城資源を循環させる「バイオネスト」の手法を通じて、多世代が学び合う機会を提供する。

【CYCLE COMPOST】

1. 活動内容

「CYCLE COMPOST」は不要となった古着等をリサイクルし、コンポスト袋として再利用する取り組みである。制作工程は障がい者作業所が担い、発酵資材には放置竹林の間伐材から竹パウダーを使用する。生成されたたい肥は、緑豊かなまちづくりに活用する循環型の仕組みを市民参加型で構築している。余剰となったたい肥は、あしや市民活動センターで回収し、庭づくりボランティア活動に活用している。また、たい肥提供者にはコーヒー券を配布し、センター内での交流促進につなげることで、多様な主体の居場所づくりにも寄与している。

2. 効果

ワークショップ実施後、約3か月後に参加者が完成したたい肥を持ち寄る交流会を継続的に開催した。これを契機に自主グループ「コンポスターズ」が発足し、現在はLINEグループを活用して情報共有や課題相談を行っている。さらに、経験者である先輩コンポスターが新規参加者への指導や助言を行う循環的な学びの仕組みが形成されており、今後も継続的な参加者の増加と好循環の拡大が期待できる。



3. 協働者

モノコミュ研究所（整理収納で古布等の提供）、（社福）メンタルサポートセンター（古布からCOMPOSTの袋制作）、ひと・杜・暮らしあまがえる（講師兼、三田市シルバー人材センターと竹パウダー提供）、ヤドリギワークス就労B（ロゴマーク制作）

【バイオネスト】

1. 活動内容

ガーデン作業を行いながら、バイオネストの仕組みや実践方法について解説する。プロジェクターを活用し、学校や地域における事例や資源循環の考え方を説明する。

2. 効果

参加者は就業前児童から70代のシニアまでと幅広い年齢層に及び、多世代交流の促進につながった。約6か月後に完成した堆肥は、ガーデンボランティアにより、リードあしやの庭づくりに活用された。ワークショップ参加者やSNSを通じて、バイオネストの経過や成果が発信され、事業の貸かと普及に寄与した。

3. 講師 ひと・杜・暮らしあまがえる（CYCLE COMPOST 協働者）



総括

芦屋市が主催する「本・古着の交換会イベント」と協働し、CYCLE COMPOST およびバイオネストに関するセミナーやワークショップを実践した。これらの取り組みを通じて、市民一人ひとりが日常生活の中で実践可能な環境配慮行動について考える契機を提供し、継続可能な地域づくりへの意識醸成につなげた。

Just! do it

応援します。あなたの活動を夢から実現へ。



(特活) あしや NPO センター

本事業が目指すところ

「活動人口100%のまち」を目指した市民活動やC B(コミュニティ・ベース)を推進します。地域課題解決に繋がる市民活動やC Bを希望している個人・団体の、最初の一步を応援し、不安を解消、プランを実現化する仕組みをつくるには、中間支援事業としてトータルサポートが望ましいと考え、実践的支援プログラム「Just! do it」事業を中間支援事業で実践します。

1. 活動・支援の内容



「つながり」を深めるための傾聴講座・おはなしルーム/浅野俊昭

心理カウンセラーの経験を活かし、傾聴講座と話を実際に傾聴する居場所を一緒に運営する仲間を集め、運営していきたい。



高校生の環境グループ/CG・J

「美しい」を維持できる街づくり
小学校から始めた高校2年を中心としたグループ。小学生から大人まで多世代での街のごみ拾いから、海洋ごみを活かすセミナーまで広く環境改善を考えている。



ジェンダー/虹風(二ナ)

当事者のための安全な居場所作り、福祉関係者に向けた発信、労働場所の提供や情報共、当事者による老後について考えるワークショップ、友達を作ろうオフ会、飲食を伴うくつろぎ屋を開催します。



災害時も共に生きる～伝え合う力を支えるツールの普及活動～/尾庭恵子

非日常である災害に備え、日常を整えるための小さな一歩を踏み出してほしい。「自分のため」から「誰かとともに生きるため」へとつながっていく、そんな防災のあり方を広めたい。



いぬねこひなたぼっこ/浅田愛

「人とペットが安心して暮らせる仕組みづくり」に取り組み、ペットと暮らす全ての人が「もしも」のときも安心できる地域の仕組みづくりを目指します。

2. 活動内容 中間支援業務における活動支援 (相談、会場提供、チラシ作成、広報支援)

- ・相談業務：団体の意向および現状を丁寧に把握し、課題調整を行ったうえで、活動の方向性について伴走型で支援
- ・情報提供：「ためまっぷ芦屋」や月1回発信するニュースレター等を通じて、団体の活動紹介やイベント情報を継続的に発信するとともに、チラシ作成等の情報発信力向上に向けた指導を行っている。
- ・人材育成：CBゼミナールの受講から「あしや市民活動フェスタ」におけるプレゼンテーションエントリー支援、助成金申請支援、「Just! do it 事業」による伴走支援まで、団体の特性や段階に応じた一貫した支援体制を構築している。
- ・ネットワーク：単独開催の交流会等にとどまらず、団体間の協働によるイベント運営を支援することで、相互理解を促進し、継続的な連携・協力体制の構築を図っている。
- ・事務指導：会則、事業計画・予算書、助成金申請書等の作成指導を体系的に行うことで、事務処理能力の向上と組織運営の安定化を実現している。

今後の展望

今後は、個々の団体への伴走支援を継続的に強化するとともに、団体間のネットワーク化を一層推進し、地域課題の解決に資する協働事業の創出を図る。特に、人材育成支援を通じて担い手の裾野拡大と次世代リーダーの育成に注力し、持続可能な市民活動の基盤整備を進める。さらに、情報発信体制の高度化やデジタルツールの活用を促進し、団体の自立的・継続的な運営能力の向上を支援することで、市民活動の質的向上と地域コミュニティの活性化に寄与していく。

有野台は昭和40年代に開発されたニュータウンであり、現在では高齢化が進行し、いわゆるオールドニュータウンとなっています。少子高齢化による地域活力の低下や、学校統廃合といった状況を受け、地域住民が主体的にコミュニティの再生と相互扶助の関係性を取り戻すため、平成29年より「ありの台マルシェ」が地域団体によって開催されてきました。令和6年にNPO法人ありの台を設立し、令和7年度からはNPO法人が主催となり、ありの台マルシェを主催することとなりました。

2025 春のありの台マルシェ 5月4日（日）開催

出店者：31 ブース
キッチンカー：14 台
来場者数：約 1200 人（コープレジ数）



有野台商店街の中にある「コープ有野」が閉店候補に上がったこともあり、【コープ応援マルシェ】と銘打ち、自治連合会と協力して、コープ商品券の抽選も開催しました。



キッチンカーは大盛況。焼きそば、クレープ、串カツ、唐揚げとポテトなど、バラエティに富んだ出店でした。



公園のステージでは、有野台児童館の「よさこい」に始まり、ありの台小学校金管バンド、地元住民によるバンドや玉美会・婦人会の踊りなど盛りだくさん！



2025 秋のありの台マルシェ 10月19日（日）開催

出店者：29 ブース
キッチンカー：13 台
来場者数：約 1300 人（コープレジ数）



毎年 11 月開催で寒かった秋のマルシェですが、今年は初めて 10 月に開催。評判は上々でした。



今回のステージの目玉はお猿さん。観客を楽しませてくれました。キッチンカーは、いつもどおり大盛況！



カウントダウンでイルミネーションが点灯！合わせて、バンドの演奏も行われました。舞台の提灯がいい感じ！



春秋とも天気に恵まれ、高齢者の外出の機会ともなり、たくさんの来場者で賑わいました。今後は、企業の寄付なども視野に入れながら、「ありの台マルシェ」を自立可能な事業にしていきたいと思っています。有野台の住民同士が顔を合わせる機会をもっとたくさん作り、安心して暮らせる有野台をこれからも目指していきます。

事業名 放置柿の有効活用―獣害対策ともったいない食資源利用のために― (地域づくり活動NPO事業助成事業)

生かそう丹波の食グループ

1 事業が目指すところ

兵庫県の丹波地域(丹波市・丹波篠山市)には、放置柿が多くあってサルをはじめ野生動物を農地に呼び寄せる獣害原因になっています。柿はどこの家にもあって入手しやすい安全安心で栄養価の高い果物で、地元丹波が誇る食資源なのに、やむなく不要な柿の木を切るなどの施策が取られています。

我々グループは、もったいない食資源の有効活用を研究したり、地産地消の製品を開発したりしてそれを人々に広めたい、それが獣害防止にも役立つなら願ってもない事と考える人達がボランティアとして集まり、計 12 名で提供を受けた富有柿を柿ジャムや柿羊羹に加工したり、講習会・試食会を開いたり、地産地消のお店で販売したりする活動に従事しています。



2 活動内容

具体的には提供を受けた富有柿を柿ジャムや柿羊羹に加工して一部を提供者に還元するとともに、余った分で試食販売会や柿ジャムづくり講習会を開催して柿ジャム製法や柿加工レシピを伝授して、市民の皆さん自身が放置柿の食資源化と獣害防止に協力してもらう活動をボランティアとして実践するとともに、柿ジャム・柿羊羹を丹波市内の地産地消のお店で販売してもらって食資源還元を行っています。

2024 年秋は柿の大不作の年でほぼ収穫 0 で柿加工は前年度に冷凍保存しておいた柿を使って柿ジャム試食販売会(1 回)、柿ジャムや柿羊かんづくり講習会(2 回)しか実施できませんでした。ただ、地元の氷上高校生が 2 回とも講習会に参加してくれました。一転、2025 年秋は柿の大豊作で 2025 年 10 月から 12 月にかけて柿の収穫(約 20 回)・柿の加工前処理後の冷凍(14 回)・ジャムや羊かん作り講習会(2 回)等など行いました。2026 年 1 月からは、柿ジャムや羊かん製造・講習会・試食会・販売会等を予定しています。

3 成果や課題

本年度は柿の大豊作で柿もぎに来てと言う連絡が膨大な数に上り我々だけの人手では柿の冷凍保存加工も出来かねる状況となり、丹波市柏原町の就労継続支援事業所きらめきワークさんをお願いして加工してもらう事になり、図らずしも前年度から懸案であった、障害者施設との協働と言う成果を達成した。

また、食品加工を学ぶ地元高校生が丹波の食材活用の課題研究テーマに柿ジャムを活用したお菓子作りに取り組むために我々とコラボしてくれることとなり、若い世代との協働と言う点で成果を上げた。

ただ、我々のボランティア活動は、裏年表年により柿の収穫量に大きな差があるという自然相手だけに成果を上げられる年と上げられない年の差を冷凍保存等で成果の平均化を図れるかが大きな課題です。

4 今後の展望と成果の活用

これまでの活動で丹波地域の人々に我々の活動が一定の認知を得て放置柿の提供や講習会参加者の増加等成果を上げてきていますが、更にその成果を定着させるためには、①我々の活動をより広く市民に周知して、我々とともにボランティア活動をしてくれる人材育成を図ること。②柿ジャム・柿チップス・柿羊羹等の柿の加工品開発を進めること。③次代を担う地元の高校生や障害者支援施設とのコラボを一層進めること。④自治体との協働などに尽力して行きたいと考えています。

つくる、つなぐ、つどう、まちコミュニティ。

NPO法人 いながわリンク



■参画協働 ■交流促進 ■情報収集・提供 ■相談支援 ■運営管理

それぞれの「できる」を持ち寄りながら、たくさんの人と一緒にまちのことをかんがえて楽しみたい。そんな気持ちで、既存団体の活動相談や新規団体の立上げなども含め、住民同士は勿論、行政や事業者などとも繋いで支援できるような取組が行えるよう、2021 年末に NPO 法人を取得しました。住民のシビックプライド（地域への関心や愛着・活動意欲など）を育み関係性を築くこと、またその結果として地域の活性に寄与することを目的として、個人や団体・事業者・行政間の参画と協働をもって地域や世代の交流に関する活動を行なっています。

①相談業務

▶誰もが気軽に集い話せる場「つながり～いな★カフェ」を開催

- ・計画中を含め計 11 回（毎月第 2 金曜日）
- ・偶数月はオンライン Zoom で実施
- ・奇数月は町内に建設された物流企業施設のカフェスペースや今年度設置された地域活動交流広場を利用

▶マルシェで個別に相談できる場「ちょこっと相談会」

- ・③のリンクマルシェキャラバン内で開催



②情報収集・提供

▶メール/YouTube/Facebook/Instagram/ホームページ

- ・各イベントの紹介や報告を媒体の特徴に合わせて随時発信



③人材育成の取組

▶新設中間支援拠点の活用

- ・拠点を管理運営する団体の構成主団体となり、新たなメンバーを加え講座や相談事業を実施

▶発信力強化

- ・ホームページ活用、名刺作成の発信力強化の講座を 2 月中旬に実施

▶新たなチャレンジを応援「リンクマルシェキャラバン」

- ・計画中を含め計 7 回開催/イオンモール猪名川



④書類作成指導

▶団体をエンパワメントする企画「NPO 大学」に協力

- ・基礎編オンライン講座 2 回 応用編講座 1 回



⑤その他（調査研究など）

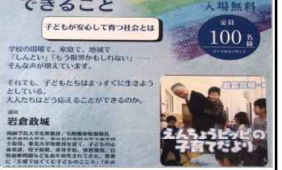
▶地域団体や行政との連携

- ・「二十歳のつどい」実行委員会及びこども課と連携し、フォトブースで協力
- ・猪名川町政 70 周年記念事業に参画「朝マルシェ」「昼マルシェ」「夜マルシェ」
- ・猪名川町政 70 周年記念事業に参画「どろんこサッカー＆田植え体験」「田んぼサッカー＆稲刈り体験」



「家族(子と親)が幸せになる人権を支援する社会教育事業」

一般社団法人ウインウイン

講演会 「生きる力をデザインする」	「夢みる校長先生」上映会& 西郷元校長先生講演会	「ゆめパのじかん」上映会& 松端講師講演会	「子どもの声をどう聞いて いますか」桜井講師講演会	「子どもが安心して育つ社 会とは」岩倉講師講演会
				

1. 事業が目指すところ

子どもと子育て世代への支援活動を通して、自由な子ども(子ども本来の姿)を創出するキッカケづくりに取り組みます。公教育という既存常識から発想の転換を図り、「自己決定の原則・個性化の原則・体験学習の原則」を踏まえ精神的幸福度を高めます。地域内のデリケートな問題を抱える当事者(虐待・自殺・いじめ等)や家族に対し、子どもの心の深層に潜む自己否定感情や自己憎悪に「自分のままでいいんだよ」と肯定的メッセージを与え続け、子どもの味方づくりを支援します。更に、子どもの孤立・孤独を予防する居場所事業を実施し、地域の子どもを中心とした共生社会づくり実現を目指します。

2. 活動内容

年月日	活動内容	年月日	活動内容
R7.6.21	「海と空の約束」お話し会 &ワークショップ(エコバッグづくり) 講師:西谷 寛(環境カウンセラー)	R7.11.29	「子どもの声をどう聞いていますか？」 ～「がんばれ」が子どもを追い詰める社会へ提言～ 講師:桜井智恵子(関西学院大学教授)
R7.9.15	「子どもの生きる力を育む脳科学的アプローチ」 ～脳と体を知り生きる力を育てる～ 講師:岸田耕二(精神保健福祉士)	R7.12.21	「不登校から学ぶ(親・教師・地域の人にできること)」 ～子どもが安心して育つ社会とは～ 講師:岩倉政城(尚絅学院大学名誉教授)
R7.9.27	「夢みる校長先生」自主上映会&講演会 ～非認知的能力でコミュニケーション力を高める～ 講師:西郷元校長先生(世田谷区立桜丘中学校)	R7.8.11 R7.10.13 R8.1.12	①絵本づくりワークショップ ②手作りパタパタ絵本 ③手づくり工作(マジックシアター)
R7.10.25	「ゆめパのじかん」自主上映会&講演会 ～子供が大切にされ互いに尊重しあえる関係とは～ 講師:松端克文(武庫川女子大学教授)	R7.7.6 R7.12.20	居場所「みんなのてらす」での協働活動 七夕イベント開催 クリスマスイベント開催 コンサート・ゲーム等 多世代交流イベント実施

3. 成果と課題点

(1) 成果: 家族支援として、講演会・上映会を通し公教育・社会教育の重要性と住民参加の地域共生社会づくりを推進しました。さらに、居場所事業を「みんなのてらす」で、ゆるやかなつながりがもてる交流の場(ワークショップ&協働イベント)として活用。
1) 家族と社会教育をテーマにした講演会・フォーラム活動 (①岸田講師 ②桜井講師 ③岩倉講師)
①自分の脳クセ(得意・特異な才能)を知ることが生きる力(自分らしい道を創る力)の原動力になる。幸せは自分らしく役立つこと。
②存在承認と関係性が大事。世代を超えた支援と交流場づくり。多様性(生き方&価値観)を認め合う社会づくり(構造変革必要)。
③多様性と包摂性を土台に、多様なままで対話を通して共に生きる世界に教育の本質がある。(管理でなく、人間の尊厳を目指す)
2) 子ども本来の自由と創造を引き出す自主上映会活動 (①西郷孝彦講師 ②松端克文講師)
①子どもファーストな公教育の作り方:「同調圧力」が心の成長を阻害、子どもを信じ自由と愛情で接することが自立の道に繋がる。
②ケア(互いの肯定関係)とエンパワーメント(生きる力を高める)が重要。子どもの生きる力と共助の地域力で私たちづくりを。
3) 人間の孤立・孤独を予防する「つなぎ役」としての充電人へのケア活動 →居場所「みんなのてらす」活用でコミュニティカフェ活動
「海と空の約束」説明後に参加者が個性的なエコバッグを作成。絵本ワークショップを通し、手づくりから個性や創造性を引き出した。
地域のネットワーク団体同士で協働のイベント開催することによって、地域共生社会づくりの基盤を形成。ファシリテーター役推進。
(2) 課題点: 認知的能力から演劇的体験重視能力へ
1) 公教育を画一的・伝統的・前例主義で子どもを呪縛するシステムから非認知的能力を高めるコミュニケーション中心の教育へ。
2) 新自由主義(能力主義・自己責任論等)によって、勝ち組VS負け組という価値観に社会構造全体が蹂躪されている。
3) 子どもと教師が漬物樽に入れられて、悲鳴やうめき声を抑え込まれている。市民の自発的な運動により漬物石を取り払う必要有。

4. 今後の展望、成果の活用

1) 今後の展望:
①非認知的能力を高めるコミュニケーション教育として、地域で演劇的ワークショップを開催。これからの新しい時代に向けて多様な価値観のある人たちがともに生きるために、ゆるやかなネットワーク(楽しい共同体)づくりをリベラルアーツから開始します。
②子どもの権利を守るアドボカシー事業として、市民運動ネットワークで重層的連帯を形成し、公教育の重しを取り除きます。
2) 成果の活用:
①居場所事業(J'sカフェ)で地域のゆるやかなつながり場を開設し、ワークショップを軸に交流の輪を展開しました。
②社会教育の新しい学びの場を通して、非認知的能力(コミュニケーション力)向上とともに主体的対話的な学びを実践しました。

地域で孤立する外国人への相談・支援活動

特定非営利活動法人 NGO 神戸外国人救援ネット

本事業の目的と背景

在留外国人数が、今後さらに増加して行くことは確実で、日本社会の各方面でなくてはならない存在となっている。兵庫県内でも全自治体で外国人数は増加傾向であるが、全ての外国人が地域に馴染んで問題なく暮らしているかという決してそうではない。

様々な生活上の問題を抱えてどのようにしたらいいのかわからないまま、生活困窮や在留資格喪失などの困難を抱えている方も少なくない。

既に相談活動のニーズは増加しており、内容も複雑化、高度化している。それに対応するには、まず相談へアクセスしやすい環境整備が必要である。このような困難な問題を抱える外国人の相談を受け、問題解決のための必要な支援を各種関係機関と連携して実施する。そのことにより外国人の生活や権利を守り、安心して生きていくことのできる多文化多民族共生の地域社会を実現することを目的としている。

活動内容

- ① 地域で孤立する外国人への寄り添い型支援活動 ……必要な機関などに相談員、通訳者が同行する
- ② 多言語による生活相談会の開催 ……専門家が相談に応じる。通訳対応あり。

成果

寄り添い型支援活動 60回(2025年12月現在)

相談者の国籍:ウガンダ、フィリピン、ブラジル、
ベトナム、ペルー、モルドバ、ラトビア、中国
日本(フィリピンルーツ)

事例① 難民認定申請中のウガンダ出身者

⇒弁護士へのつなぎ、打ち合わせの際の通訳

⇒住まい探し、契約時の通訳

⇒転居先での電気・ガス・水道の開栓手続き など

事例② ブラジル人夫婦と小学生の子ども

この一家は、仕事があればすぐに家族全員で引っ越し生活を続けており、都道府県をまたぐ移動もいとまません。そのため、特定の地域との関わりはあまりありません。以前は兵庫県に住んでいましたが、他県に移った後、最近再び兵庫県に戻ってきました。しかし、不景気の影響もあり、以前のようにすぐに仕事を見つけることが難しい状況でした。そのため、今回は私たちの団体が支援を行うことになりました。

⇒生活保護申請、住まい探し、小学校の転入手続き、通院先探しなど

多言語による生活相談会

2025年12月7日(日) 芦屋市社協の相談会に協ナ

2026年1月24・25日にオンライン相談会を実施予定

せいかつ こま せんもんか そうだん
生活の困りごとを専門家に相談できます。

オンライン
ONLINE

がいこくじん
外国人のための
むりよう せいかつ そうだんかい
無料生活相談会
FREE CONSULTATION ON LEGAL & DAILY LIFE MATTERS
LIBRENG KONSULTASYON PARA SA MGA DAYUHAN NA MAY KINALAMAN SA BATAS
外国人的免費法律生活商談会
BUỔI TƯ VẤN MIỄN PHÍ CHO NGƯỜI NƯỚC NGOÀI

2026
1/24 とうりつ 土曜日
25 にちようび 日曜日
10:00~16:00

もうしこ 申込みQRコード
Application QR Code
予約が必要です。
Reservation is required

●相談は一人1時間です。
●電話、ZOOM、LINE、FACEBOOK
で話ができます。

こうへ がいこくじんきゅうえん
特定非営利活動法人 NGO神戸外国人救援ネット
この相談会は「令和7年度ひょうごボランティア基金地域づくり活動NPO事業助成」により実施します。

特定非営利活動法人 NGO 神戸外国人救援ネット

〒650-0004

神戸市中央区中山手通 1-28-7

TEL & FAX 078-271-3270

(月・水 10:00-18:00/金 10:00-20:00

土・日 9:00-17:00)

【mail】gqnet@poppy.ocn.ne.jp

【website】<https://gqnet.jp/>





NPO法人お-えんくらぶ STEAM LABO



①事業を通して

国が推進するSTEAM教育は、これからのIT社会を生きる子どもたちに必要な、論理的思考力や問題解決力、創造性を育む学びとして注目されています。一方で、地域においてはその学びに触れる機会がまだ十分とは言えない状況があります。

本事業では、小学生を対象とした体験型イベントにSTEAM教育の要素を取り入れ、子どもたちがのびのびと「やってみたい」「知りたい」という気持ちを大切にしながら挑戦できる環境づくりを行いました。

イベント当日は、試行錯誤を重ねながら主体的に取り組む姿や、友だちと意見を交わしながら考える様子が多く見られました。体験を通して、子どもたちは自分で考え、判断し、工夫する楽しさを実感しており、「できた!」「またやりたい」といった前向きな声も多く聞かれました。

こうした経験の積み重ねが、子どもたちの自発性や創造性、問題解決力を育むとともに、自分自身を肯定する気持ちの向上につながっていると感じています。

②実施内容

【ワンデーイベント】

実施回数：3回（雨天中止含む）

8月：実験・工作・調理・学習カードあそび・プログラミング

10月：明石公園での自然体験 ※雨天中止

12月：おせち料理教室

【料理教室】

実施回数：3回

8月：重ね煮&おにぎりづくり

12月：おせち料理教室

2月：アイシング・クッキー教室

【自然と共に生きる力を育む環境学習プログラム】

実施回数：5回（雨天中止含む）

6月：海岸清掃+しゃぼん玉ショー

9月：海岸清掃+しゃぼん玉ショー

10月：海岸清掃+フレスコボール ※雨天中止

12月：クリスマス会（シーグラス工作）

2月：環境学習（高校生と企画中）

【プログラミング教室】

実施回数：12回

4月から毎月開催（Scratchによる簡単なゲーム作成など）



第8回かみかわ銀の馬車道まつり

かみかわ銀の馬車道まちづくり協議会

開催趣旨

兵庫県の歴史的景観形成地区に指定され、日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」の中でも街並みが残る有数の構成遺産となっているが、高齢化による空き家の増加や、老朽化に伴う取り壊しによって、街並み景観が崩れつつある。そこで地域内外の皆様に当地域の歴史や魅力を知ってもらうため、また空き家を活用した事業の立地を進めるため、街道沿いでイベントを行い、空き家利活用に取り組む事業者の発掘を行う。

事業の概要

歴史的景観形成地区の旧街道を歩行者天国とし、沿線でのステージイベントやブース出店を行う。さらに利活用者を募集している沿線の空き家を内覧できるよう解放し、空き家内での展示や物販等も行った。また、今年度は、「タイムスリップ」をテーマに、花魁道中や県の協力による本物のポニーが街道を歩く催しを行った。

開催日時：令和7年9月21日（日）10：00～15：00

来場者数（概算）：約2,000名 スタッフ：30名

出演者数：191名 店舗数：33店舗



総評

昨年に引き続き開催となり、前回の反省と経験を生かし、広報をスムーズに行うことができたため、昨年を大幅に超える来場者にお越しいただけた。今回は宿場町であった街道の景観を生かし、浴衣での来場を促したり、花魁道中を実施したりすることでこの地域の魅力を地域内外の方に広く知っていただけるきっかけとなった。また、2026年に銀の馬車道が開通150周年を迎えることのPRとして、銀の馬車道ネットワーク協議会より本物のポニーの連れてきていただき、馬車が歩く街道を復活させることができた。さらに、町が連携する大学にボランティアとしてご協力いただき、兵庫県から依頼のあった日本遺産の継続認定に向けたアンケートの実施を行った。

今後も恒例イベントとして、継続していくために人材確保と資金調達、また事務や準備のマニュアル化を行う必要があると感じた。



NPO 法人環境ユースイングてんま（いなみ野水辺の里公園指定管理者）

わく★わく NightFes 報告



緑いっぱい景色はサイコーだけどバスは希少・・・若者はどこ？な稲美町
課題解決にむけて！！その魅力を発信！！

兵庫大学 現代ビジネス学科による企画・運営



若者は大学に・・・
兵庫大学とのコラボ
地域づくりを担います

みんな一緒に盆踊り♪



そうめん流し やはり祭りには食べ物でしょう



ため池研究所 兵庫大学には、ユニークな
部活動があります。



稲美町には、ため池が88個
も！環境のことも
啓発します。

地域のバンドやお母さん方の演奏



お店 地域の方々に出店していただきました



みんなつながって
稲美町♡大好き



市民活動団体・NPOに携わる地域づくり人材育成事業

➤ 事業の目的

北播磨地域におけるNPO法人や市民活動団体は、地域課題の解決に重要な役割を果たしている。しかしながら、近年では活動を担う人材の高齢化や後継者不足が顕在化しており、多くの団体が世代交代や人材確保という課題に直面している。

人口減少や高齢化が進む中、主体的に地域課題を解決しようとする市民の動きは、持続可能な社会の実現に不可欠である。本事業では、この状況を踏まえ、市民活動や社会教育の基礎知識を備えた人材を育成するとともに、リーダーや中核人材のネットワーク構築を図ることで、地域課題の解決に向けた基盤作りを目的とする。

➤ 活動内容

■ NPO設立・運営相談

団体の立ち上げから運営まで、幅広い分野の相談に対応する

▶ 相談窓口

相談件数 延べ42件（面談・訪問・電話・メール・オンライン） ※12月末時点

相談内容 実務（会議の開催、手続きに関する事） 18件

事業の実施に関する事 1件

設立・法人化に関する事 9件

活動資金に関する事（助成金申請など） 1件

その他（会計、登記、解散など） 13件



相談窓口：小野市うらおい交流館エクラ



施設内掲示板での情報提供

▶ 情報発信

メーリングリスト（登録者数：157人）で助成金情報等を毎月2回発信

■ セミナー「NPO法人事務力パワーアップ講座」

事業年度終了後の手続きや書類作成のポイントを学ぶ講座を実施する（2/27開催）

■ 「NPOのリーダーおよび中核人材育成のための勉強会」（仮）

NPOの代表等コアメンバーを対象にした、市民主体の活動に関する勉強会を実施する（2月中予定）



2/27 NPO法人事務力パワーアップ講座

➤ 事業の成果・今後の展望

相談業務では、法人設立や助成金申請、実務の助言など幅広く対応し、現地視察を通じて地域実態の把握に努めた。また、若手スタッフの研修により相談支援の人材育成も推進した。今後もNPO等との連携を深め、地域に根差した相談・情報発信の窓口として、持続可能な地域づくりの推進に寄与することを目指していきたい。

「不登校・ひきこもり経験者等、社会に出るのに不安を抱える 青少年に対する総合的な相談支援及び居場所づくり」

NPO法人 京ロスコラ

当団体について

不登校生対象のフリースクール京ロスコラとして1986年にスタートし、2003年にNPO法人化。スタッフは主に、臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士、保育士の有資格者で構成。現在は、学齢期だけに限らず、広く若者を対象に、その人が社会とつながるための支援を心身両面にわたって提供している。

併設の相談機関京ロカウンセリングセンターと連携して運営。

1. 事業の目的

社会に出るのに不安や困難を抱える若者は年々増えており、次第に高齢化していることも大きな問題となっている。そのような、なかなか外に出られない若者が気軽に利用できる居場所を作り、そこで安心できる人と出会いながら、生活訓練、共同活動、共同作業などができる機会を提供し、心身の安定と、自立的に社会とつながれることを目指す。

2. 活動内容

居場所事業 … 毎週金曜日 11:00～17:00 開所。

日常的な人との関わり、創作活動、農作業、レクリエーション、季節のイベントなどを通して対人関係の緊張緩和を図り、自分に自信をつけることを目指す。随時、講師を招いてのクラフト講座（手工芸や料理など）も実施。

社会スキルアップ講座 … 毎月一回開催。外部講師（臨床心理士）。小グループでのワークを通して、各種社会的スキルの向上を図る。

親の会 … 毎月一回開催。当施設利用者さんの親御さんを中心に、様々な悩みを抱える親御さん相互の情報交換会・勉強会。専門スタッフが進行役兼アドバイザーとして参加。



居間



親の会風景



畑作業



クラフト講座



木工



成果物

3. 成果

当事業は三年目となり、当初からの利用者（一部は“卒業”した方も）に対しては一定の安心感と、人と接することに対する自信のなさの軽減、という面での成果は着実に上がってきている。そのことが新規の利用者にも安心感を与え、好循環を生んでいる。各自が自身と社会との関わり方について主体的に考え、それをお互いに話すこともできるようになってきている。また、遊びやコミュニケーションが増えるにつれ、創作活動や生産活動にも主体的に取り組む姿が多くみられるようになってきている。

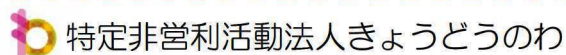
講座は、継続利用の方が増え、互いに顔見知りになるとともに、グループワークでの相互のコミュニケーションもスムーズになってきている。また、親の会では、不安を抱えた親同士の互いのサポート関係ができるとともに、新規利用の方へのアドバイスも主体的に行える会となっており、会での活動を通じた親の心の安定が、家庭での子どもへの好影響という結果も生み出している。

4. 今後の課題、目標

三年の活動を経て、活動内容自体は充実し、人間関係も良好になったものの、その後すぐに一人一人が社会に出られるかというと、それにはもう少しハードルがあるケースも多く、引き続き、関係団体と連携した個別のサポートを同時並行で続けていく必要がある。

活動の安定とともに主体的な動きも増えてきており、創作物や生産物のレベルも上がっているが、目標のひとつとしている「事業化」までは至っていない。今後、より各自の能力を発展させて自信につなげるという目的からすると、小規模からでも、販路を開拓していくことが次の課題である。それに関連して、事業の経済的な自立度を高めることは今後の大きな課題である。そのために、利用者の増加、制作活動と販売の充実、そういった面に力を入れていく必要がある。

六甲アイランドの団体活性化と住民の活動参加を応援する事業



特定非営利活動法人きょうどうのわ

1. 事業を始めたきっかけとこれまでの経緯

NPO法人きょうどうのわは神戸市東灘区の六甲アイランド(2万人)で、持続可能な地域づくりに取り組んできた。「活動をもっと多くの人に知ってもらいたい」という地域団体共通の課題を解決しようと、2023年からスタートした「六アイ・コミュニティフェスタ」は今年で3回目を迎えた。六甲アイランド地区はまち開きから35年以上が経過し、新旧の多様な団体が活発に活動しているが、それぞれの団体が直接住民と交流・面談する機会は少なく、活動見本市形式のイベント開催は、住民が地域資源を知るという点では画期的なものであった。手探りで始めた初年度であったが、27団体が参加し、来場者も300人を超えるなど「様々な団体が活動していることを知ってもらおう」という第一目標は達成できた。33団体が参加した第2回は「活動のすそ野を広げ担い手を開拓する」という目標を立て、団体の活動内容を紹介するだけではなく、活動への参加や見学の呼びかけを強化した。フェスタのあと「活動現場見学ツアー」を実施したこともあって、多くの新規活動者を獲得することができた。

2. 今年度の活動内容

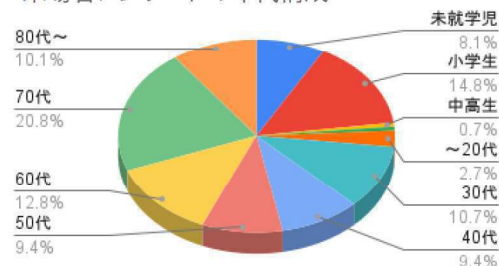
実行委員会を組んで企画を進め、9月28日、神戸ファッション美術館4階を会場に「第3回六アイ・コミュニティフェスタ」を開催した。最多となる38団体が出展し、来場者は330人を超えた。来場者は、毎回若男女問わず幅広い層であるが、アンケートによると40代以下が約半数を占めた。また男性が多く参加(約4割、初回と比べて倍増)したことが特徴的であった。

初の試みとしてプレイベント＝東灘区長のミニ講演会を実施、70人が参加した。またフェスタの中間にPRタイムを設けたところ、12団体が名乗りを挙げ、メンバー募集や見学募集を熱く訴えた。会場全体にアットホームな空気が流れ、なまの声で活動を知ることができたと好評だった。これらの仕掛けによって来場者の滞在時間が長くなり、盛況感が出た。

第3回にして従来の地域団体・地縁団体に加え、警察や神戸市協働局など行政、企業・銀行・NPOなど民間、島内の美術館・大学・女子学生会館など多分野からの出展が実現し、多様性が増した。会場に設置したシールアンケートでは、9割を超える人が「地域にこのようなイベントが必要」「ボランティアをしてみたいと思った」と回答した。当日の様子は神戸新聞に掲載され、後日メディアロコウで配信(3年連続)された。10月には「活動見学ツアー」を実施し、10人が参加して8団体を回った。



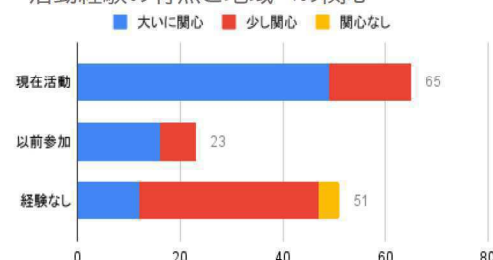
来場者アンケートの年代構成



3. 成果と課題

成果は、①出展団体の増加②多様な分野からの参画③男性や現役世代住民の来場増加である。今回もアンケートを実施し、150件の回答を得た。フェスタ初参加が半数を超えており、その大半が「活動経験はないが、地域に少し関心がある」と回答していることから、六アイ住民のポテンシャルや活動のすそ野がさらに広がる可能性を把握できた。今後は、「少し関心がある」と答えた層を活動参加につなぐために、①フェスタのようなイベント②日常的なサポートの仕組みの両方が必要であると考えてる。

活動経験の有無と地域への関心



4. 今後の展望

アンケートによると、来場者からも出展団体からもフェスタ継続を望む声が多く寄せられている。また今回は、地域貢献や住民サービスを担う官民の多様な機関も、住民との接点を求めていることがわかった。

3年間の本助成の支援で、住民に見える形で、地域を支える大きく緩やかなネットワークを構築し、持続可能な地域づくりに舵を切ることができた。今後も地域団体と協議する機会を持ちながら、六甲アイランドの活動活性化を進め、かつ地域外へも発信できるような事業を展開していきたい。

＊2/7には事業報告＆団体交流会を開催し、次年度について意見交換、事業を進める予定。

地域のこころの相談室「あまりす」

NPO 法人ゲートキーパー支援センター

■当団体について

悩みを抱えている人に寄り添い力になることのできるゲートキーパーの育成とサポート事業、個別カウンセリング・総合相談、ひきこもりの人の居場所とステップハウス、女性と子どものための居場所の運営などを行っています。

■本事業の目的・趣旨

カウンセリングを必要としているにも拘わらず、経済的な負担があるために「受けたくても受けられない」人が多い。その問題を解決するため、当団体が自主事業として行ってきたカウンセリングルームを「あまりす・こころの相談室」として地域の人々に開き心理の専門家などに相談する機会を無料で提供します。



■活動内容

【無料相談提供期間】

令和7年7月から令和8年1月(平日18時～21時、木・土曜10時～21時開室)
対面による無料カウンセリング及びアウトリーチ面談 期間内での月1回の継続利用可

【相談内容の抜粋】

項 目	内 容
ひきこもりに関すること	不安感で社会とつながれない、うまく他人とつき合えない、恥や罪悪感に苛まれる
心に関すること	恐怖や不安・うつ・自信のなさ・孤独感・他人への信頼感のなさなど
家族に関すること	親からの干渉、親の愛着をめぐる姉妹間のいさかい
職場に関すること	職場での責任・重圧感、上司との関係性、働きたいが何から始めたら良いか？
その他	住居の退去要請を受け緊急に住まいを探したい、一人暮らしをしたい、医療や薬への不信感から通院拒否をしている

■成果と課題

【成果】 相談件数:43件(予約含む)、相談者数10名、内7名継続利用(12/31現在)

【効果】 「気持ちの整理ができた」「居場所に参加できるようになった」「生きる力を回復しつつある」

「自分の生きづらさを理解できてきた」(利用者の感想を聞き取り)

当団体の居場所へのつながり(2名)、ひきこもり家族への支援:当団体家族会へのつながり(1名)

就労支援(B型事業所へのつながり2名)、住まい(居住支援)へのつながり(2名)

【課題】 ①相談者のつながり:期間後、7名の方を居場所や家族会、居住支援などにつなげることができたものの
引続き無料相談に頼らざるを得ない方もおられ対応方法を検討中。

②申込みがあったが実際の相談に繋がっていないケースがあった。カウンセリングについての事前説明や
受け入れ方法にも工夫が必要

■今後の展望

利用者からは期間後の継続利用希望の声が挙がっている。当団体としても「必要な時に必要な支援を受けられる場所」でありたいと願っている。期間限定ながら「無料カウンセリング」の仕組みを継続していきたい。今後の無料カウンセリングのための財源としては、寄付・クラウドファンディングなどを含め、検討の必要がある。

1.事業概要

本事業は、演劇を媒介として地域住民や学生の交流を促進し、但馬地域に暮らす人々の生活圏の中に演劇が存在する環境を創出することを目的として実施したものである。

但馬全域の3市2町（豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町）および豊岡市内5町（城崎町、日高町、出石町、竹野町、但東町）において、コミュニティセンター等を会場としたツアー公演を実施した。学生が現地を訪れ、演劇公演および交流の機会を設けることで、地域住民との直接的な関わりを図った。さらに巡回公演で得た成果を発表し、日常からホールへ足を運ぶきっかけにしてもらいたいという展望のもとであさご・ささゆりホールにて成果公演を行った。

2.事業の実施状況

○巡回公演

- ・内容：1.演劇作品「葉桜」上演（作：岸田國士）（約 40 分） 2.レクリエーション「つなぐ」（約 50 分）
- 3.おはなし会（約 30 分）（共催：ひよコモンズ）

	日時	会場	参加人数
日高	6 月 22 日（日） 13:00～15:00	江原_101	12
城崎	7 月 8 日（火） 17:30～19:30	城崎国際アートセンター	10
養父	7 月 27 日（日） 13:00～15:00	おおやアート村 BIG LABO	5
新温泉	10 月 11 日（土） 13:00～15:00	浜坂地区多目的集会施設	2
朝来	11 月 9 日（日） 13:00～15:00	口銀谷銀山町ミュージアムセンター	3
香美	11 月 16 日（日） 13:00～15:00	村岡区中央公民館	3
但東	12 月 14 日（日） 15:00～17:00	高橋地区コミュニティセンター	15(お話会のみ 7)
(以下実施予定)			
出石	1 月 10 日（土） 15:00～17:00	弘道地区コミュニティセンター	
竹野	1 月 17 日（土） 13:00～15:00	竹野地区コミュニティセンター	
豊岡	1 月 25 日（日） 13:00～15:00	まちの基地アンテナ	



(写真 1) 演劇作品上演の様子



(写真 2) レクリエーションの様子



(写真 3) おはなし会の様子

※参加人数は参加されたお客様のみとする。

○成果公演

作品タイトル：原作『ヴェニス商人』
日時：12 月 21 日（日） 14:05～15:20
上演時間：75 分
会場：あさご・ささゆりホール
動員数：98 人

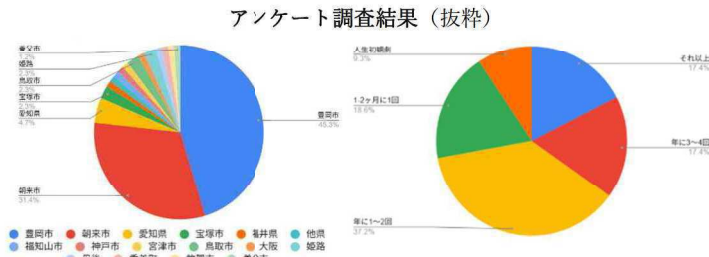


図1 観客の居住地域の分布

図2 舞台鑑賞頻度について



(上：写真 4)



上演の様子

(左：写真 5)

ホワイエの様子

3.展望

今後は、事業を継続的に実施していくため、地元企業や市町村との共催・連携といった手法も取り入れながら、事業運営の安定を図っていきたいと考える。その背景として、但馬地域では SNS よりも紙媒体による広報が主流であり、学生劇団のみでの情報発信には到達範囲や信用面において一定の限界があると感じられたことが挙げられる。

また、但馬地域内での作品消費にとどまらず、但馬地域外への広報アプローチを見直し・強化することで、但馬外からの来訪者を呼び込み、地域への利益の還元や集客の増加を図るとともに、事業運営の持続性向上につなげていく。

体力測定会

特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブ

1. 事業が目指すところ

高齢化が進むなか、高齢者の居場所づくり、介護予防の重要性は高まっている。グリーンアリーナ神戸では、トレーニングセンター「@ジム」において、マシン、フィットネスプログラムによる運動の場を提供しているが、まずは運動や体を動かすことのきっかけとなるよう、気軽に参加できる体力測定を定期的に行い、グリーンアリーナ神戸に足を運んでもらう機会を提供。

その後の定期的な利用も含めた居場所づくりを展開する。以上から、以下3点を目的とする。

1. 高齢者の居場所づくり
2. 高齢者の運動機会づくり
3. 体力の把握、定期的な運動機会を通じた介護予防

2. 活動内容

体力測定会

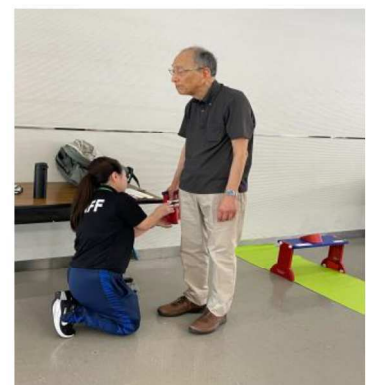
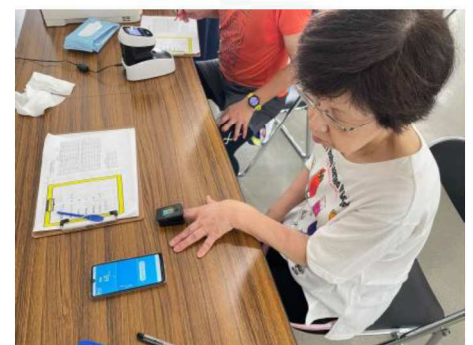
地域の方を対象とした、体力測定会を行う

日程：2025/6/20・9/20・12/6 2026/2/7

時間：11:00～15:00

会場：グリーンアリーナ神戸 コスモスギャラリー

実施内容：握力測定【上肢筋力】・上体起こし【筋持久力】
長座体前屈【柔軟性】・開眼片足立ち【平衡性】
ヘモグロビン測定・体成分測定



	6月23日	9月20日	12月6日	2月7日
参加人数	64	44	48	集計中
うちジム未登録の 一般の方	11	30	30	集計中

運動継続への提案

グリーンアリーナ神戸@ジムのご紹介（参加者特典付き）

3. イベント状況と成果

測定に待ち時間が出るほどの回もあり集客は順調であったが、既に運動機会がある方のご参加も多かった。広報で手法やターゲットを外に向けることにより、回を追うごとにジム未登録の一般の方の比率が高くなった。参加者からは、測定自体に興味を持っていただけてだけでなく、定期的に測定ができるのがよい、他の方との会話が楽しかった、運動は継続したい、といった声があった。

4. 課題や今後の展望

@ジムの紹介は行ったが、実際の登録者数はあまり伸びず、今後の課題となった。ご提案についてアプローチ方法を見直し、今後も各種イベントとの併催なども検討しながら、実施を継続していく。

茅材の地産地消へ地域の茅刈り技能者、支援者と供給地の拡大に取り組む (2 年目)

1. 事業の目的、茅生産の実績と目標

日本の風土文化が育てた多様な建築物の一つである茅葺きを中心とした古民家住まいが見直されているが、茅葺き屋根材の茅は、阿蘇(熊本県)などから県外から購入している。産地の積雪などにより生産供給量・価格などが変動する。これらのリスクヘッジへ

茅材の「地産地消」を目指しているが「茅刈り人材・供給地(茅場)」の不足により、「人材と供給地の拡大」へ取り組んでいる。茅束の生産実績と目標は表-1 である。

2. 茅束生産増大への目標と取組み

2 年目の計画は、既存茅場の生産数 200 束の生産水準にすることにしており、課題は、小野の茅場がクズ、ヤブカラシなどつる植物の繁茂により収穫が落ちていることである。つる植物退治などの施策(表-3)実施により目標達成(表-1)を目指すことにした。

3. 活動内容

生産年	令和8 (2026) 年 目標	令和7 (2025) 年 実績	令和6 (2024) 年	令和5 (2023) 年	令和4 (2022) 年	令和3 (2021) 年	令和2 (2020) 年	令和元 (2019) 年	平成30 (2018) 年	平成29 (2017) 年
茅場名(住所)										
谷家茅場(北区道場町)					195	142	169	69	38	0
岸家茅場(丹波市青垣町)	130	148	90	100	97	61	69			
百々家茅場(丹波市大開町)	80	44	43	80	77	5	0			
新規茅場(丹波市市島町)	50	40								
茅束数 計	260	232	133	180	369	208	238	69	38	0
茅束数の増減(令和6年比)計	127	99								

	一年目(令和6(2024)年度)			2年目(令和7(2025)年度)			3年目(令和8(2026)年度)			備考
	目標	実績	差異	目標	実績	差異	目標	実績	差異	
1)茅刈り人の増加(人)	2	6	4	4	2月予定		6			
2)茅束生産量(束)	50	99	49	100	2月予定		200			
3)-1茅刈り場の調査数	2	2	0	2	2		4			
3)-2茅刈り場の増加数	0	0	0	2	2月予定		4			
4)草刈り作業を知る	2	1	-1	2	6		2			
5)茅場を知る	2	4	2		1(東祖谷京柱峠茅場)					
6)茅葺き技術を知る	2	1	-1	1			1			
7)茅刈り技術を知る	2	2	0							
8)茅束つくりを知る	2	2	0	1	2月予定		1			
9)茅束貯蔵運搬を知る	1	3	2	1	2月予定		1			
10)古民家維持を知る	1	2	1	1	1		1			



茅刈り火入れ(写真は昨年3月4日(小野)丹波24日(丹波))→今年は、2月8日(小野)15日(丹波)の予定



草刈り・つる退治(250619) 茅ノ輪づくり(250716)

東祖谷茅場研修(7月11月) ふるさと自慢(251108)

3. 成果・課題点

本年は、夏場の酷暑により学生一般車者参加が望めず NPO のメンバーに負荷のかかる作業となった。また、茅場のメインイベントの「茅刈り」は、2 月予定であり、最終成果も 2 月の確認となる。

4. 今後の展望・成果の活用

最終成果を確認し、三年目の成果に向け計画を見直し計画達成に向け取り組む。

以 上

生活困窮、困難者への緊急支援

とその支援ネットワーク構築事業

NPO法人 神戸の冬を支える会

1, 事業の目的、趣旨

収入も所持金のなくその日の食事にも事欠く状態であったり、ホームレス状態に追いやられている方に対して、安心して暮らせる住居の確保と食事や生活必需品等の提供などの緊急的支援を行うとともに、そのような方を地域社会全体でサポートしていく支援体制を具体的な支援活動を通じて構築していくことをめざす。



2, 事業の方法

(1) 緊急支援の実施

- ・住居を失っていた方が住居確保し生活再建するにあたっての緊急支援
- 昨年・一昨年に引き続き、食料品、寝具、日用生活用品、衣類等の提供・貸付を実施。
- ・生活に困窮して生活費が無くなるなどしている方への緊急支援
- 食料品、日用生活用品、衣類等の提供または貸付
- 、そのような状況になった原因や背景などを理解し、各種支援制度利用へのつなぐ取り組みとフォローアップの実施

(2) 支援ネットワークの構築の取り組み

- ・支援の取り組みを通じて関わった各種団体やメンバーとは、取り組み内容について振り返りを行うなどして、問題の共有化を図った。個別の事例を通じてつながりを作り、地域の課題として、生活困窮の問題を考えて行ってもらう環境を作り、支援のネットワークを構築していくことをめざす。

3, 成果と今後の課題 —活動を通じた地域の支援力の構築—



住居を失った方の住居確保に合わせて寝具、日常生活用品・当面の食料品の提供はますますニーズが増えてきた。各種団体からの支援依頼も増加し、姫路市内の地域包括支援センターの研修会での活動報告の依頼があるなど、課題の共有化と連携の前進を実感している。

支援の実施を通して各種関係機関とのつながり強化も実現しており、支援を1回限りのものとせず、地域の「支援力」の強化に向けた取り組みにつないでいきたい。

『子供のプログラミング的思考と情報活用能力学習の支援活動』（予定） （プログラミングの学習会）

NPO 法人 神戸ロボットクラブ

1 事業が目指すところ

2020年、学校教育にプログラミング教育の導入が始まり、小中学生にパソコン、またはタブレットを一人一台支給している。しかし、すべての子供たちが容易に使いこなせるとは限らないし、フォローする教育機関が少なく、費用の面でも教育を受入れられない等の問題が発生している。当協会はそのような子供達に費用面、人的にも一人一人寄り添う教育を行うために、学習会を開き、少しでも置き去りや、興味のなくす子供たちをなくし、より理工学に興味を抱くようにしたい。またシニアに対するパソコン学習の一環、居場所づくりを目指している。

2 活動拠点

神戸を中心に、地域福祉センター等でおこなっていましたが、固定的な活動場所として、灘区六甲で定期的な場所を借りて定期的な学習会を行うこととした。



地域のお祭りにての展示会



地域での学習会

3 成果や課題点

子供たちは、プログラミングが良くわかり、学習意欲も出てきている、さらに名前が徐々に知れ渡って学習者も増え、固定的な学習場所を確保したためリピーターも徐々に増えつつあります。ただし、学校以外の学習会では、あいも変わらずパソコンやタブレットは学校の物は使用できないため、当協会ですべて取り揃えているため、各機材の設定を都度おこなわなくてはならず、また、旧式の物で、大きく重たいものが多いため、支障をきたしている。

4 今後の展望、成果の活用

神戸市内の小学校にも授業の一環としておこなうようになり、当協会の信頼感が増したのか、今年度は小学校、中学校にても出前授業も行いました。今後公共での学習会を行うことが増え、神戸市の今年よりの『コベカツクラブ』の参加も申し込んでいる。固定的な学習場所の継続、必要機材の充実、講師陣の増員も見込まれるようになり、子供達に対する配慮も深めることにもなり、放課後の学童保護の一翼にもなっていけると思うし、すでにその要請も来ている。一方、シニアの受講生が増え、シニアの生きがい活動にも貢献でき、居場所づくりの一翼になりたいと思います。

以上

市営住宅集会所を活用した多文化多世代の地域コミュニティ拠点づくり事業

公益財団法人神戸 YWCA

1. 事業が目指すところ

人と人との出会い、つながり、活動するサードプレイスとなる

神戸 Y W C A は、2023 年 4 月から市営 HAT 神戸・灘の浜南集会所「なだのはまエイト」で、活動を開始した。HAT 神戸灘の浜は、阪神淡路大震災の災害復興住宅として、UR、県営、市営住宅が建設された地域である。孤立や孤独が社会問題になる中、神戸 Y W C A がこれまで行ってきた様々な地域福祉活動の経験を生かして、引き続き多文化多世代の地域コミュニティ拠点づくりに取り組む。

2. 活動内容



みんなのカフェ

毎月第 3 日曜日

10:00～12:00 オープン

地域清掃への参加



イベント開催

4 月 能登とつなぐ

9 月 歌の会

10 月 なだのはま寄席



野菜市とミニミニバザー

毎週金曜日

13:00～14:00 開催

クリスマスバザー



なだのはまエイトだより

毎月 1 回発行。11 月から印刷を業者に発注しカラー刷りに変更。市営・県営住宅全戸に配布。



地域コミュニティとの関係づくり及び地域調査

地域の方もメンバーとして企画ミーティングに参加。ヒアリング実施予定。

3. 成果と課題

活動 3 年目に入り、月 1 回の「みんなのカフェ」は定着し、毎週金曜日の「野菜市とミニミニバザー」も好評で、どちらも参加者が増加している。地域の方々と顔と顔の見える関係ができ、企画ミーティングへの参加、バザーへ寄附、なだのはまエイトの応援団として等、様々な形で参画する人が増えた。活動を継続する中で、参加者、ボランティア等、関係人口が増えている。イベント企画では、試行錯誤し、ニーズを探った。昨年度より広報紙「なだのはまエイトだより」を発行、毎月 850 部を市営・県営住宅にポスティングしているが、白黒コピーからカラー印刷に変更したことも、参加者増につながった。

課題としては、孤立や孤独へのアプローチや、多文化へのアプローチが不十分であった。今後ヒアリングを進めて方策を探りたい。また、活動継続のための資金とコーディネート者の不足も課題である。

4. 今後の展望、成果の活用

活動を継続することで、今後も新たに活動に参画する人が増えると予想される。人が出会い繋がり活動する、多文化多世代の地域コミュニティ拠点づくりに向けて、新たな活動展開を模索したい。

団体名：NPO法人プラッツ

参考資料

事業名：継続した地域の活動者掘り起こしと、協創の芽を産生む土壌作り

1 非営利法人の 会計セミナーLV.1



2025.6.28開催

2 但馬コミュニティ協創会議 第7回



2025.8.31開催

3 共感を産むストーリー づくりからはじまる (企画づくりを学ぶ)



2025.11.2開催

4 非営利法人の 会計セミナーLV.2



2025.12.10開催

5 但馬コミュニティ協創会議 第8回



2026.1.24開催予定

他

- NPO法人設立相談
- NPO法人運営相談
- 一般社団法人設立相談

ICT 企業との協働による地域の居場所のためのメニュー開発および PC 寄贈事業 —AI を活用した3つの交流プログラムを開発—

1. 事業概要・目的

神戸市東部では孤独・孤立化が課題となっており、当法人ではそれらを改善するため「常設型の地域の居場所」の設立・運営支援に注力してきた。しかしながら、現状では、制度化がされておらず、あらゆる資源(ヒト・モノ・カネ)が不足している。それらの課題の中でも特に資金面での課題改善のため、昨年度より地元企業 10 社が、地域の居場所 10か所を支える「ごちゃまぜかふえ」の仕組みを実験導入してきた。今年度は、企業連携の動きをさらに加速させるべく、地域 ICT 推進協議会(会員 97 団体・個人)と協働し、研究会を組成、Win-Win となる企業と居場所の関係構築と事業の実装を目指した。

2. 事業の内容

①研究会の開催(年 5 回)

…地域 ICT 推進協議会に所属する会社(株式会社ハック、株式会社 iC)、地域の居場所(NPO 法人灘つどいの家)、オブザーバーで中間支援組織(認定 NPO 法人コムサロン 21)と事務局のCS神戸で組成。AI 交流プログラムの検討やごちゃまぜかふえでのトライアル等を実施した。

②AI を活用した交流プログラムの開発(計3プログラム)

…地理やポケモンなどのテーマに沿って AI が無限に 2 択クイズを出題する「トロツコゲーム」、それぞれの地域の特色や見た目の特徴などを入力すると妖怪を画像生成する「ようかいメーカー」、PC カメラで顔を認識させると若返ったり性別が変わったりする「へんしん鏡」の3プログラムを開発。

③企業から居場所への PC の寄贈(計 12 台)

…上記の AI プログラムを掲載した中古 PC をごちゃまぜかふえ団体および播磨の団体に寄贈。

④居場所サミットの開催

…2026 年 2 月 21 日に研究会の報告・AI プログラムの披露・贈呈式を兼ねたサミットを開催予定。

3. 成果とこれから

地域のつながりづくりというアナログ的要素の強い居場所(ごちゃまぜかふえ)と、AI ゲームというデジタルコンテンツが組み合わさり、ICT 企業群による新たな支援プログラムの創出ができた。余剰PCの寄贈はICT企業にとってはハードルが高くない社会貢献であり、今後、別地域での展開も期待できる。そのためにはICT企業および地域の居場所の両方の現状を把握した上での調整が不可欠となるため、今回その役割を果たした当研究会の役割を整理し、公開することで他地域での展開に寄与していきたい。



トロツコゲーム



ようかいメーカー

令和7年度ひょうごボランティア基金地域づくり活動 NPO 事業助成事業

「阪神地域・みやっこセミナー開催事業」事業報告資料

特定非営利活動法人コミュニティ事業支援ネット

1. 事業概要

本事業は、阪神地域を対象に、人材を必要とする NPO 等とボランティアに関心がある人や多様な専門知識やスキルを有し社会的活動に関心のある人が直接会い、団体の特色や専門性を知り、活動に参加するきっかけとなるマッチングイベント「みやっこセミナー」を開催することで、NPO 等をはじめとする市民活動団体のエンパワメントの一助とするものである。

2. 事業内容

①「みやっこセミナー」の実施概要 [予定]

日 程：2026 年 2 月 23 日（月・祝）10:00～16:00

場 所：甲南大学西宮キャンパス（阪急西宮北口南改札口徒歩約 3 分）

参 加 者：500 人

主な内容：社会課題の解決に向けて取り組む NPO 等市民活動団体や企業などが講師役となり、それぞれの活動やノウハウを生かした授業（セミナー）を開催する。

授業/講師：64 授業・講師

そ の 他：みやっこセミナーは本年度で 3 回目となり、これまで実行委員として活躍して頂いた NPO 等市民活動団体の方々が実行委員会を組織し、協働で実施する。

ホームページ：<https://sites.google.com/view/miyasemi/>

②みやっこセミナー実行委員会の活動実績 [10～11 月実施]

第 1 回実行委員会	9/1(月)	実行委員会の組成/全体スケジュール確認/担当決め
第 2 回実行委員会	9/22(月)	新たな実行委員の紹介/実行委員長を選任/全体スケジュールの確認/講師募集準備
第 3 回実行委員会	10/29(水)	担当決め/講師募集状況確認/講師事前説明会の内容確認/チラシ作成スケジュールの確認
会場下見・打合せ	11/6(木)	使用可能教室と機材の確認/ランチ提供方法の確認
第 4 回実行委員会	12/1(月)	講師・授業内容の確認/ボランティア従事者数と内容の確認/広報スケジュールの確認 /当日配布資料の検討/オープニング・ランチパフォーマンスの検討
会場下見・打合せ	12/19(金)	使用教室と機材の依頼/会場設営・警備・清掃の依頼
=====<以下、今後の予定>=====		
第 5 回実行委員会	1/12(月)	チラシ仕分/広報方法の確認/当日の流れの確認
事前設営	2/20(金)	会場設営/当日配布資料準備
みやっこセミナー	2/23(月・祝)	

3. 今後の展望

「みやっこセミナー」はまだ開催していないが、今回は阪神北地域の市町から後援名義をとり、阪神北地域を活動エリアにする講師も参加し、これまで以上の規模で開催する予定である。そのため、より多くの NPO 等市民活動団体のエンパワメントに寄与することが期待できる。



令和7年度ひょうごボランティア基金中間支援活動助成事業（基本事業）

「阪神地域・ボランティア活動のエンパワメント事業」事業報告資料

特定非営利活動法人コミュニティ事業支援ネット

1. 事業概要

本事業は、とりわけ地域づくり活動が盛んな阪神地域の7市1町において、ボランティア活動を中心としたNPO法人等に対して、当法人が設立以来中間支援団体として培ってきたネットワークやノウハウを生かして、団体設立や活動・運営に係る課題への相談対応、団体と市民・学生をつなぐ相談対応を行うものである。また、阪神南・北地域の全NPO法人のNPO法の遵守状況や公告情報を調査し、必要に応じてアドバイスをを行うことで、ボランティア活動を中心としたNPO法人のエンパワメントの一助とするものである。

2. 事業内容

阪神地域の7市1町の全NPO法人を対象に、下記方法で調査を行った。

①公開情報を点検 [9～11月実施]

・R7.9/1時点の内閣府NPOポータルサイト掲載情報をもとにプロフィール
→当法人が運営する地域しごとサポートセンター阪神105に情報掲載（全560法人）
<https://ikisapo105.com/groups/>

②アンケート調査（右記） [10～11月実施]

・NPO法の遵守状況や公告情報をアンケート調査（全560法人を対象に調査し42法人から回答）
→アンケートを見て法令遵守事項についての問い合わせが複数あり、都度相談対応を行った。

③相談対応 [R7.4～R8.1月実施]

・団体設立や活動・運営に係る課題への相談対応、団体と市民・学生をつなぐ相談対応（222件/R8年1月6日時点）
→②アンケート結果で不備がある団体にも是正のための相談を行った

3. 今後の展望

今回の取り組みを通じて、「兵庫県への報告」や「貸借対照表の公告」といったNPO法の遵守事項を認識していない団体がまだまだあることがわかった。ボランティアな活動を中心に行っている団体とは言え、法人である以上は遵守事項を守り、きちんと情報公開することで活動の広がりや担い手の創出につながり、団体のエンパワメントの第一歩になると考えるため、引き続きサポートを行っていき

NPO法人の県への報告・公告に関する聞き取り調査

<していない理由・原因>

- ①そもそも遵守事項がわからない ②法改正の情報がわからない ③担当者が変わりわからない
④活動してないので必要ないと認識 ⑤総務的な人員・時間がない ⑥その他 []

1. 年1回の事業報告等の実施状況

1. 総会・理事会の開催（少なくとも年1回の）	★	☐ している	☐ していない	
2. 県への事業報告（事業年度終了後3か月以内） （事業報告書、会計書類、役員名簿、社員名簿）	★	☐ している	☐ していない	
3. 県への事業報告の方法		☐ 持参 ☐ 郵送 ☐ e-ひょうご(web報告) ※R8.3月31日終了 ☐ 内閣府ウェブ報告システム(web報告) →web報告を活用すれば費用がからず簡便です		
4. 貸借対照表の公告の実施 ※H28法改正義務化	★	☐ している	☐ していない	
5. 貸借対照表の公告の方法 ※定款の記載内容をご確認ください		☐ 事業場への掲示 ☐ 官報掲載 ☐ 内閣府ポータルサイト ☐ 法人HP ☐ その他新聞等 ☐ 定款に記載していない →内閣府ポータルサイトを活用すれば手間や費用がからず簡便です		

2. 役員変更に係る県への届出

（役員変更等届出書、変更後の役員名簿（就任期間欄不要）、就任承諾書及び誓約書コピー、住所票原本（本籍・続柄・マイナンバー不要））

6. 任満時の役員変更届 （2年1度、変更・再任に問わず必要）	★	☐ している	☐ していない	
7. 任満時の代表者の登記 （2年1度、変更・再任に問わず必要）	★	☐ している	☐ していない	
8. 役員変更時の変更届	★	☐ している	☐ していない	
9. 定款に定める役員数の充足	★	☐ している	☐ していない	
10. 監事の専任（理事・職員の兼務せず）	★	☐ 専任している	☐ 専任していない	
11. 役員に占める親族の割合を満たしている（親族1/3以下）	★	☐ 満たしている	☐ 満たしていない	

3. 定款変更手続き

12. 定款変更時の県への認証申請・届出	★	☐ 変更したことがある ☐ 変更したことがない →変更したことがある場合 ☐ 申請・届出している ☐ 申請・届出していない		
13. 法人の名称・住所・目的・活動の種類の変更時の法務局への登記	★	☐ 変更したことがある ☐ 変更したことがない →変更したことがある場合 ☐ 登記している ☐ 登記していない		

地域づくり活動 NPO 事業助成事業 子育てサロン防災共育プロジェクト事業 ～地域の親子が安心して集える子育てサロン開催～

認定特定非営利活動法人コムサロン 21

1. 事業が目指すところ

本事業は、子育て中の家庭が災害時にも安心して行動できるよう、「子育て」と「防災」をテーマに学びとつながりの場を提供することを目的としています。防災意識が高まる中、乳幼児を育てる家庭では「何を備えればいいのか分からない」「避難が不安」といった声が多く、情報や経験を得る機会が限られています。また、姫路市内では子育てや育児の孤立も課題となっており、日頃から地域で支え合う関係づくりも必要です。本事業では、親子イベントにあわせて体験型の防災ブースを出店し、子育て中の親子が楽しく備える“きっかけ”の機会をつくります。防災を“特別なこと”ではなく、“日常の一部”として学べるよう工夫し、家庭と地域に安心を広げていきます。

2. 活動内容

◎地域の親子が安心して集える子育てサロンを年間3回開催（担当：前川・作原）

	日 時	イベント名	場所	参加人数
①	2025年7月19日(土) 10:30-12:30	子育てサロン 浴衣でこども縁日を楽しもう×親子で防災を考えよう	ピオレ姫路 3階 キッズスペース	大人53名+子供39名+スタッフ7名+ スタッフ子供1名=合計100名
②	2025年9月20日(土) 10:00-12:00	子育てサロン9月の活動日×親子で防災を考えよう	ピオレ姫路 6階 ピオレホール(大)	大人19名+子供14名+スタッフ7名+ スタッフ子供2名+企業3名=合計45名
③	2025年12月27日(土) 10:00-12:00	子育てサロンランチ付き忘年会 × 親子でちょこっと防災×家計改善セミナー	ピオレ姫路 6階 ピオレホール(大)	大人21名+子供16名+スタッフ6名+ スタッフ子供3名+企業2名=合計48名

<会場の様子>



<配布したもの>



◎10月25日 ハロウィンイベント(ピオレ・フェスタ)でのブース出店（担当：前川・作原）

	日 時	イベント名	場所	参加人数
④	2025年10月25日(土) 10:30-16:00	姫路ハロウィン「姫ハロ」×親子で防災を考えよう	ピオレ姫路 1/3/6/屋上 テラス 1/2 階	事前申込:全体304/大人146/子供158 当日申込:全体293/大人145/子供148 トータル:全体597



3. 成果や課題点

本事業では、商業施設ピオレ姫路内のオープンスペースでの開催により、事前告知された参加者だけでなく、偶然立ち寄った親子も含め多くの方と交流する機会をつくることができました。特に「浴衣でこども縁日×防災」「サロン×防災×マナー講座」「ランチ付き忘年会×防災」など、多彩な企画を通じて、参加者が楽しみながら防災について考えるきっかけを提供できました。

具体的には、防災チェックシートや防災用品のサンプリング、絵本の読み聞かせ、防災手形アート制作、避難所でもできる自律神経ケア等の体験型コンテンツを通じ、防災行動の準備や心構えについて自然に意識化する機会となりました。また、企業協賛によるランチ付きマナーセミナーを組み合わせた回では、幅広いテーマでの学びと交流があり、平日のみでは得られない多様な体験を提供できました。

参加者からは「遊びながら防災について学べた」「日常の中で備える意識が高まった」「親子で共通の話題ができた」といった声が寄せられ、子育て世帯への防災意識啓発に一定の効果が見られました。また、大学生ボランティアの関わりにより、世代を超えた地域参加の広がりも評価されました。

一方で、多数のコンテンツを同時に提供した回では、個々の体験時間が分散しやすかった点が課題として挙げられました。今後は、コンテンツの適切な時間配分、体験と交流のバランス調整等を検討し、より満足度の高いプログラム構成を進めていく必要があります。

4. 今後の展望、成果の活用

今後は、子育てサロンと防災を組み合わせた取り組みを継続的に実施し、「防災＝特別なもの」ではなく「日常の延長線上にあるもの」として地域に定着させていきたいと考えています。乳幼児期から親子で防災に触れることで、家庭内での備えや会話につながり、災害時の不安軽減につながることを期待されます。

また、これまでの実施実績や参加者の声を活かし、地域の企業・専門職・学生との連携をさらに広げていくことで、より多様な視点からの地域全体で親子を支え合える防災ネットワークづくりへとつなげていきたいと考えています。

1. 事業が目指すところ

世界情勢・経済環境・物価高騰など、社会不安などの要因が、NPC活動を行う団体の活動のボランティア意識の減退となり、新たに抱える様々な運営に関する悩みや問題を解決するための活動が資金的なものも含めて、進めにくい社会情勢となってきました。

中間支援組織であるコムサロン21が持つ多様なノウハウやネットワークを活用して、そのような団体や個人の活動をサポートを行う「播磨 NPO 中間支援センター」事業を継続し、地域の住民活動の創出や課題解決の支援を行い、地域の活性化に貢献することを目的とします。

2. 活動内容

◎NPO 団体設立運営相談会

R7.12 月時点で 14 件の相談があった。

日 時	相談者名	相談内容	担当
令和7年 4月 8日(火)	村上昭人氏 元障がい者差別解消法ネットワーク	今後のセカンドライフの活動について	前川
令和7年 5月 2日(金)	今里朱美氏 (株)エリアシ他	日本カーシェアリング協会の災害時拠点について	前川
令和7年 5月20日(火)	三木一久氏 元 コクヨ他	NPO 法人設立のメリット・デメリットについて	前川
令和7年 6月 2日(月)	向井宏氏 要約筆記サークルひめじ	難聴者支援サークルの防災イベントについて	前川
令和7年 6月 4日(月)	福岡加奈氏 ひめじ未来ラボ	ジュニアコミュニティカレッジ事業について	前川
令和7年 6月 9日(月)	吉澤武彦氏 日本カーシェアリング協会代表理事他	日本カーシェアリング協会兵庫支部設置についてひようごボランティアプラザでの面談に同行	前川
令和7年 6月16日(月)	向井宏氏 要約筆記サークルひめじ他	要約筆記サークルイベント周知・協力依頼のため、姫路市危機管理室への同行	前川
令和7年 6月17日(火)	村上昭人氏 和のエンタメ座代表	和のエンタメ座オンラインツアー事業について	前川
令和7年 6月18日(水)	大塚千珠氏 NPO 法人色えんぴつ代表	グループホーム経営困難による解散について	前川
令和7年 6月30日(水)	鞍本長利氏 NPO 法人ウイズアス	兵庫県ユニバーサルツーリズム協会設立について	前川
令和7年 7月 5日(土)	西影宗明氏 学生 SDGs推進支援ボランティア	学生のユニバーサルツーリズム活動について	前川
令和7年 7月 7日(月)	日本工科専門大学 矢部幸文校長他	学校の 30 周年イベントの協力について	前川
令和7年 7月31日(木)	野阪愛由氏 Zappa 村 代表	活動中の事業の NPO 法人化について	前川
令和7年 8月 4日(月)	栗 涛(リ トウ) 兵庫大学 留学国際交流センター 他	退職後の地域貢献事業や法人設立について	前川



◎NPO 団体専門家相談会

令和 7 年 11 月 5(水) 10:00~11:00

・生成 AI に関わる相談会 専門家: 作原英輔氏

令和 7 年 11 月 14 日(金) 15:00~16:00

・ネット販売に関する相談会 専門家: 作原英輔氏

令和 8 年 2 月 予定

◎情報提供・ネットワーク



日 時	場 所	参加団体数	参加人数	内 容
令和7年 5月13日 (火)	コムサロン 21 オンライン (ZOOM)	2 団体	4 名	助成金、補助金説明会 情報交流会
令和7年 7月 8日 (火)		4 団体	8 名	NPO 法人の地域団体の活動紹介情報交流会
令和7年 9月 9日 (火)		6 団体	11 名	生成 AI 活用の企画書作成入門編 情報交流会
令和7年11月18日 (火)		4 団体	8 名	NPO 法人・地域団体の活動紹介 情報交流会
令和8年 1月13日 (火)		団体	名	NPO 法人・地域団体の活動紹介 情報交流会

◎若者 NPO ボランティア体験

日 時	実施内容	人数
令和7年8月10日(日)	姫路城おしろのそうじボランティア	〇〇名
令和7年11月23日(日)	姫路食博2025ユニバーサルツーリズム事業	2名



上記のほか、毎月第2日曜日に開催している、お城のそうじ会にスタッフとして毎月2名程度、ボランティアには1月現在合計10名程度参加していただいている。

3. 成果や課題点

相談会には、年度初めから多くの相談があった。すでにネットワークやスキルのある住民は具体的に進んで行けるが、活動資金の相談については、具体的なサポートがしにくいので、助成金の情報提供の相談を中心に行った。新たな相談の中では、NPO 法人の整理相談が複数あり、世代交代の相談も増えてきた。福祉関係の NPO 法人設立は、事業の性質もあり具体化しやすいが、まちおこし活動は継続性も含めて過渡期となっていると考えられる。

4. 今後の展望、成果の活用

物価高や人材不足の流れが、NPO 活動にも影響し、活動の見直しや収益体制づくりが重要となってきている。

中間支援 NPO の活動自体の継続性も含めて、NPO 法人の社会的役割を考えていきたい。

また、企業との連携がさらに重要となると考えられるので既存のネットワークだけでなく、新たな企業とのつながりを構築していきたい。

世代をつなぐコミュニケーションプロジェクト Building connections for the future 一般社団法人 さんぴいす

■ 概要・社会的背景

日本の多くの地域コミュニティでは、高齢化と深刻な担い手不足に直面しています。世代間の価値観や経験の違いから生じる「コミュニケーション不足」が若手の参画を阻み、後継者不在という悪循環を生んでいます。本事業は、この構造的な課題に正面から向き合うために企画しました。

■ 目的

1. 世代間の価値観のずれを相互に理解する
2. 団体の活動内容や目的における世代間の理解不足を解消する
3. 多世代が気軽に集まり、対話を増やす場を創出する



＜活動実績＞ 世代間の相互理解を促進するワークショップを計3回開催しました。行政職員、地域活動のベテラン、次世代育成委員会の三者という、地域の担い手エコシステムを構成する多様な層へアプローチを行いました。

- **第1回：2025年10月24日(金)**
 - 場所：市役所東館3階／対象：芦屋市職員等／参加：24名
- **第2回：2025年11月13日(木)**
 - 場所：市役所分庁舎／対象：地域活動関係者／参加：31名
- **第3回：2025年11月28日(金)**
 - 場所：青少年センター／対象：芦屋市愛護委員会／参加：33名

＜成果・効果＞

目標を大幅に上回る満足度を達成！

事業計画時のKPI（満足度80%以上）に対し、全3回の総回答者数69名中、67名（**97.1%**）が「満足」「大変満足」と回答しました。

- **業務への活用意欲100%**：芦屋市職員対象の回では、全員が「今後の業務に活用できる」と回答。
- **活動意欲の向上**：地域づくり、多世代交流、他団体との協働など、課題解決の場面での活用が強く期待されています。



■ 今後の展望 今後もより魅力的な地域コミュニティの実現を目指します。

- 脳科学などを切り口にした多世代交流イベントの企画・実施
- 小学校区を起点とした地域コミュニティの創出
- 他団体との連携強化による活動の幅の拡大



【次回開催予告】 コミュニケーションを脳科学からとらえてみよう

- **日時**：2026年2月21日(土) 14:00~16:00
- **会場**：リードあしや（兵庫県芦屋市公光町5-8）



トークセッション「今どきの子どもとの向き合い方」+実践報告+ボードゲームで学ぶ2時間！
すれ違いの起点がわかるシン・親子コミュニケーションのトリセツを体験しませんか？

【お問い合わせ】（一社）さんぴいす 連絡先：0797-22-8896 / info@sanps.jp



中間支援活動助成(基本事業)報告

一般社団法人さんぴいず 「ネットワーク型中間支援事業のモデル化」 事業



概要

持続可能な新たな中間支援の仕組みとして、ネットワーク型の中間支援事業のモデル化と淡路市でのネットワーク型中間支援の実践支援を続けている。新たに得られた成果と今後の展望について報告をおこなう。

キーワード: ネットワーク、中間支援、団体連携、AI 活用、合理化

【目的・背景】

目的:

事業を行うには、「人・もの・金・情報」など、様々な資源を必要とするが、一つの団体が全てを負担するのではなく、複数の団体がそれぞれ専門分野を担うことで、少ない資源を有効活用することで行える新たな中間支援の形を生み出す。

背景:

NPO 元年から 30 年が過ぎた現時点でも中間支援を主事業としている団体の多くは、自主財源だけで事業を継続することが難しく、行政などの公的な機関からの支援を必要としているところが多い。しかし、中間支援とは別の専門分野で自立出来ている団体は多いので、専門性の高い複数の団体をネットワークし持続可能な中間支援が実現できないかの検討と実践を進めている。



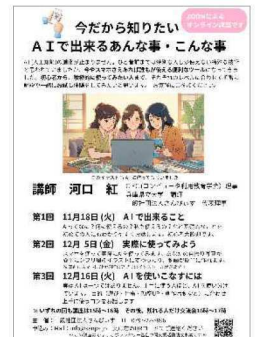
← この画像も AI に作ってもらいました。

※プロンプトは、日本の 40 代の女性 3 人が、チャット GPT を使って、旅行の計画を立てています。AI を使って楽しく作業をしていることが伝わってくるジブリ風のイメージのイラスト又は画像を作ってください です。

【成果・効果】

成果:

- ・ AI 活用講座 (全 3 回) に延べ 40 人以上 (行政、大学、市民団体、一般) と幅広い分野の方に参加頂いた
- ・ 淡路市中間支援ネットワークの輪が広がり NPO 団体だけでなく淡路市社会福祉協議会との連携を促進させることができた



効果:

今年度のひょうごボランティアプラザ助成事業の事業報告会のテーマが「人材確保と資金調達」だったが、AI の活用と専門分野を持ち団体のネットワークにより、専門性の高い人材を低賃金で確保することが可能となり、そのためのプラットフォームやアプリなどもノーコードで作成が可能となった。

事業内容

- ・ **相談業務:** 淡路市での隔月 (偶数月) の相談会に出席、その他随時相談に対応
- ・ **ネットワークの構築・情報提供:** 淡路市中間支援ネットワークの SNS とひょうご子育てコミュニティのメーリングリスト、当団体ホームページなどを活用
- ・ **人材育成 (講座の開設等) 研修:** AI 活用講座 (全 3 回) の実施と相談業務の際に直接指導
- ・ **書類作成指導:** 上記の講座の中で AI を活用した書類作成についてのコツや注意点を指導
- ・ **調査研究:** 「世代をつなぐコミュニケーションプロジェクト」を実施

今後の展開・課題

今後の展開:

- ・ AI プラットフォームの取捨選択
- ・ 成功モデルの確立
- ・ ネットワーク型中間支援組織の数を増やす
- ・ AI を使いこなせる人材の育成

課題:

- ・ 考えを共にする専門分野との更なる連携
- ・ 利用者からの信頼性の確保と認知の向上
- ・ 行政など公共団体との連携強化

事業名：淡路市中間支援ネットワークの事務局機能 構築事業

特定非営利活動法人島くらし淡路

1.事業が目指すもの

淡路市では人口減少や担い手不足が進む中、移住者の力を地域につなげる仕組みが求められている。島くらし淡路は「まざる・まぜる活動」を通じて中間支援ネットワークの窓口となり、2年目は団体同士が得意分野を持ち寄りながら支え合う体制づくりを進めた。その上で、相談窓口「ふらっと」をさらに広め、気軽な日常の相談から専門的な相談まで幅広く受け止められる環境づくりを強化。地域全体で支え合う仕組みの土台づくりを目指している。

2.活動内容

●ふらっと あわじ中間支援ネットワーク のロゴ作成

●偶数月の第三金曜日 ふらっとcafe （全6回 / 年）

相談受付や活動の拠点であるHATCHにて偶数月に開催している定期相談会
10/17(金)については津名図書館にて交流会（拡大版）を開催

●5月24日(土)「しままぜ交流会(移住者交流会)」(参加者：大人17名・小人4名 計21名)

交流会内にて『淡路市に移住して良かったことランキング』アンケート実施

●6月8日(日)「納豆ミュージアムラボ」(参加者：大人7名)

淡路市内に移住後に納豆店（長澤納豆店）で起業した方から、講習会を開催したいと相談があり、企画や広報の支援を行い開催。その後、自身で継続している

●9月13日(土)「Canvaワークショップ デザイン体験してみよう！」(参加者：大人8名)

学び合い講座として、canvaを使用したことがある方もない方も混ざって、

それぞれの作成してみたいもの、作成事例などを紹介する座談会方式のワークショップを開催

●11月28日(金)「介護のてまえ」(参加者：大人8名)

淡路市社会福祉協議会が毎月開催している「介護のはじめ」という介護者の集いから着想を得て、すぐに介護をする訳ではないが、介護をするとなった時の備えを学びたい、と一般市民からの相談があり、淡路市社会福祉協議会と協働で開催

3.成果と課題

1) 成果：今年度は「ふらっと」を通じて相談の広がりが見られ、個人だけ

でなく団体からの相談も少しずつ増えてきた。雑談の中から自然に話が広がり、暮らしや地域とのつながりへ広がっていると感じることも多くなっている。相談内容に合わせて活動を柔軟に組み立てたことで、関わりが一度で終わらず、学びの継続や新たなコミュニティが生まれはじめ、さらに他団体との協働も増え、ネットワークの動きが少しずつ育ってきている。

2) 課題：「ふらっと」の存在や役割はまだ広くは知られておらず、相談を目的に訪れる人は多くない。気軽に立ち寄れる窓口として、より周知と案内を進めていく必要がある。また、複数の団体で支える体制は整いつつあるものの、誰がどの専門分野を担当するのか、情報の共有方法など、ネットワークとしてのしくみづくりには課題がある。中間支援を担う人材をどのように増やし、継続していくかも、これからの大切な課題となっている。



中間支援活動助成

NPO大学“マナビ塾”2025

特定非営利活動法人 市民事務局かわにし



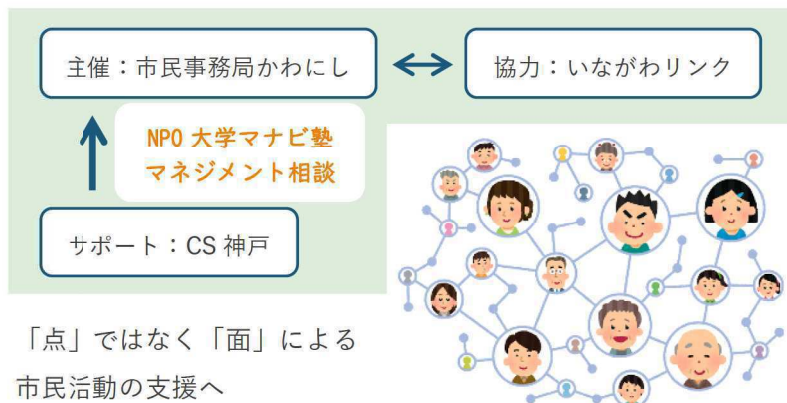
28年間の積み重ね

・「NPO 大学」事業は、1997 年に神戸で産声を上げ、兵庫県内 NPO 法人の持続可能な運営を目的に「NPO マネジメントスクール」、「NPO 大学」、再び「NPO マネジメントスクール」、そして「NPO 大学“マナビ塾”」と呼称を変えながら 28 年間実施されてきました。

・長年の運営主体であった「認定 NPO 法人 CS 神戸」からバトンを引き継ぎ、2015 年度より「NPO 法人市民事務局かわにし」が実施しています。

成果

中間支援の相互エンパワメントと地域情報の交換



「点」ではなく「面」による
市民活動の支援へ

基礎編はオンライン、実践編は対面セミナー！

実施報告

準備編

オンデマンド 配信

① 組織の「健康診断」ツールを知る 組織の課題抽出のための「SWOT」分析をNPO向けにアレンジされた手法で学ぶ
兵庫県立大学大学院社会科学研究科 教授 菅野 浩二 さん / 視聴時間 40分

② 組織の「羅針盤」ツールを学ぶ 「SWOT」分析表を展開させて作成する「戦略マップ」や「BSC」(バランススコアカード)について学ぶ
兵庫県立大学大学院社会科学研究科 教授 菅野 浩二 さん / 視聴時間 40分

NPOって？ 視聴時間 30分
「実践活動から」
長年にわたるNPO法人活動から社会課題との向き合い方を学ぶ
認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸) 中村 聡子 さん
「法人立上げの前と後」
法人立上げ前から、「NPO大学・マナビ塾」受講を経て後の現状について語る
NPO法人いながわリンク 理事 杉澤 さん・代表 久美子 さん
「よくある質問から」
NPOの意義やなぜNPO法人が必要なのかなどを考える
NPO法人市民事務局かわにし 三井 ハルヒ さん
「はじめの一歩から」
NPO法制定から25年以上が経ち、再度、NPOの存在意義を考え、さらなる活動進展へ
認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸) 高田 敏子 さん

プロから学べる

基礎編

オンライン(Zoom)開催
(オンデマンド 配信あり)

2025年 12/9(火)・12/15(月) 13:00~14:00

③ NPOって？ 行政との協働
NPOの役割や強みを改めて見直し、
行政との協働について学ぶ
日時 2025年12/9(火)13:00-14:00



能島 裕介 さん
NPO法人ブレンシユーマニティー創業者、2017年まで
理事長を務める。2013年から尼崎市参事・就任、尼崎市教
育次長、理事を経て、現職。

④ NPOって？ シチズンシップ教育
より良い市民社会をつくるための
シチズンシップ教育について学ぶ
日時 2025年12/15(月)13:00-14:00



川中 大輔 さん
シチズンシップ教育企画代表
関西学院大学 専任講師
市民による社会イノベーション実践に熱心な寄与をしながら、
若者の社会参画を促した能動的市民性の涵養と協働まち
づくりの推進、NPOのマネジメント支援に取り組んでいる。

学びを活かす

実践編

「実践編」へのご参加は、事前に準備編①②と基礎編③④のご試聴が
必要です。(受講確定度、リンクをお送りしますので、当日までにご覧ください。)

2026年 1/30(金) 13:00~18:00

個別にアドバイスを受けながら、自組織を「SWOT」で分析して
課題を抽出。さらに「SWOT」分析表を使って「戦略マップ」
「BSC」を作成し、次年度の「事業計画」にもつなげます。

会場 川西市市民活動センター・川西市男女共同参画センター
(川西市小花1-8-1「パレットかわにし」内)

定員 15人 ※同一団体から複数で受講いただくと、より効果的です。

受講料 準備編+基礎編:2,000円 実践編:2,000円 お支払いは、申し込み後に事務局から振込先をご連絡いたします。

・日時：基礎編（オンライン開催、オンデマンド配信あり）

①2025年12月9日（火）13:00-14:00

②2025年12月15日（月）13:00-14:00

実践編（対面セミナー）

2026年1月30日（金）13:00-18:00

・会場：川西市 市民活動センター
男女共同参画センター

・協力：NPO 法人いながわリンク

・申込：準備編・基礎編・実践編 10人
(NPO 法人、任意団体、地縁団体等)



能登のお宝活月プロジェクト

認定 NPO 法人しみん基金・こうべ

1, 事業の目的

奥能登は地震のあとの大雨によって二十被災となった。復興が遅々として進んでいない現状に、30年前の被災地の市民として支援したいとは思っている人は多い。ただ、実際に現地に出向き支援することができる人は限られる。現在当基金が実施している、珠洲市に入っている支援団体と連携した輪島塗漆器のボランティアによる洗浄・販売事業は、現地に行くことなく被災地の支援に協力することができる。また販売は複数の団体の協力、および神戸市の協力を得ており、その売上は、連携団体を通じ、珠洲市の町内会に寄付されることにより、珠洲市のコミュニティ活動の維持・継続支援につなげることができる。

2, 活動内容

① 洗浄会

5月14日 KIITO:300にて参加者7名

ボランティアによる漆器洗浄並びに現地支援も行うスタッフ
による被災地現状報告

洗浄会



② 販売（1/13 現在）

販売総額 301,800 円

【他団体協力】

KIITO 内常設ショップ（～7月 KIITO 協力）、
須磨いるサロン常設販売（～9月 西須摩だんらん協力）、
4/5 NPO 法人花たばが水道筋のイベント販売、
5/18 神戸まつりブース出展（神戸市協力）
7/26・27 みなとまつりブース出展（神戸 JC 協力）

神戸まつりブース出展



【当基金主催イベント時販売】

顕彰事業ブラッシュアップワーク（6月）、公開審査会（11月）、あいウォーク（1月）

③ アップサイクル検討

お椀やお皿は売れるものの現代の生活様式に合わないお膳が売れ残っているためアップサイクルを検討している。

10月 トランクデザインさん（垂水区）と打ち合わせ

トランクデザインさんがお膳から作ったブローチをイベントでテスト販売。好評につきピアスやブローチ等のアクセサリにアップサイクルする方向で、KIITO にも協力を仰ぎながら検討中。

3, 成果と課題

複数の団体・組織の協力を得ながら販売し、寄付を行うことができた。売れ残るお膳のアップサイクルは今後の課題である。

4, 今後の展望

お膳も捨てずにアップサイクルし、引き続き息の長い支援を継続したい。

今後の在り方と可能性を探る試みとしての顕彰事業

認定 NPO 法人しみん基金・こうべ

1, 事業の目的

能登半島地震の際の災害対応に、30 年の間に行われて来た災害支援の経験がほとんど活かされない現実を目の当たりにした時、憤りの気持ちと共に、当団体が行ってきた助成事業に間違いが無かったのかという疑問を持つに至り昨年度はメインである助成事業を顕彰事業に変更するという大きな決断を行い、新たなあり方、可能性を探ることを目的とする。また支援を受ける側と支援をする側とがおたがいさまの精神で、「利他を送る」という寄付文化の醸成も目的としている。

2, 活動内容

- ① 助成事業に対する相談対応 9 件 ヒアリング 15 団体
- ② 情報提供・ネットワーク
 - ・ 昨年度顕彰提案団体のブラッシュアップワークは 3 月と 6 月に実施。今年度顕彰提案団体のブラッシュアップワークは来年 3 月実施予定。
 - ・ 今年度再開した助成事業の公開審査会を 11 月に実施。
 - ・ 昨年度顕彰提案やワークの報告書を作成し広く配布した。
 - ・ HP、SNS、メルマガ発行などにより関係各団体から寄せられた情報等の発信
 - ・ ニュースレターの発行 年 3 回
 - ・ グーグル広告、ヤフーネット募金を使った情報発信
- ③ 人材育成
 - ・ 6 月中央区文化センターにて昨年度顕彰提案ブラッシュアップ講座実施 54 名参加（アドバイザー等含む）
 - ・ 11 月助成事業公開審査会実施 46 名参加（スタッフ含む）
 - ・ 12 月に黒田裕子賞贈呈
- ④ 書類作成指導
 - ・ 顕彰・助成申請相談後のメールや電話による書類申請指導（他事業で NPO 会計決算書作成指導など）
- ⑤ その他
 - ・ 物品寄付者等へのお礼状作成・発送

公開審査会



報告冊子



3, 成果と課題

被災地支援活動に限定していた特定枠助成は申請団体も固定化していたが、顕彰事業に変えることにより異分野の団体が普段の活動の中で災害時に思いを致し、ブラッシュアップワークで多様な参加者とともに普段の活動や日常の気づきを議論することができた。

4, 今後の展望

特定枠助成は顕彰事業に変えることで一步前進することができた。被災地支援団体だけが災害時の活動を考えるのではなく全ての団体に災害時の活動を考えてもらえるよう継続していきたい。

「あそび」を通じて地域の関わりあいを育む “かわのまちまちあそび事業”

2025年度実施報告

[期間：2025年7月～2026年2月]



【事業概要】

(1) 中間支援団体である当法人を主体として、複数の多様な主体がともに企画・運営する地域交流型の遊び場「かわのまちまちあそび」を、小中学生が参加しやすい長期休暇を中心に年3回程度開催する。企画段階からシニア世代や学生、療育施設、地域団体など日常では交わりにくい層をコーディネートすることで立場や世代を越えた協働をきっかけに継続的な関係性が生まれる場とする取組を行う。

(2) 子どもや保護者等の来場者も遊ぶ側にとどまらず、「遊びをつくる側」にも回れるよう関わりしを設け、主体的な参画を促すといった工夫を行う。また、東播磨地域の地域団体や地域住民が学び合い、交流できる機会を設けることで、遊びを媒介とした緩やかなつながりを地域内外へ広げていくことを目指す。

【事業実施状況】

第1回かわのまちまちあそび

～子どもたちが企画するものづくりワークショップと室内遊びの回～

実施日：8月26日(火)10:00～12:00

開催場所：東播磨生活創造センター「かこむ」

来場者：95名

協力団体：木のおもちゃころころ、こどりーむ、Comgyu、
かこむ図書パートナー、加納さん（計4団体）

ボランティアスタッフ：7名（小学生2名、高校生3名、大学生2名）

内容：木のおもちゃ自由遊び、ボードゲーム、ダンボールクラフト、
スライム作りワークショップ（フリースクール学生主催）
デコホイップクリップ作り（小学生店長主催）など



第2回かわのまちまちあそび

実施日：11月2日(日)13:00～16:00

開催場所：ベルデモール商店街

来場者：350名

協力団体：NPO法人ゆるり家、のぞえプレーパークのこのこ、
NPO法人高砂キッズ・スペース、加納さん（計3団体）

ボランティアスタッフ：11名（中・高校生6名、大学生2名、30代～70代3名）

内容：落書きエリア、アクティブエリア、クラフトプレイエリア
ボードゲーム、書道コーナーなど



第3回かわのまちまちあそび

～クラフトや伝承あそびを楽しむクリスマスの回～

実施日：12月26日(金) 10:00～12:00

開催場所：東播磨生活創造センター「かこむ」

来場者：81名

協力団体：伝承遊び倶楽部、こえのとびら、カリンバの会、図書パートナー
折り紙同好会（計5団体）

ボランティアスタッフ：6名（中学生2名、高校生3名、70代1名）

内容：段ボールクラフト、伝承遊び、絵本読み聞かせ、カリンバ演奏など



あそび場づくりフォーラム2025（研修会）

～多世代・多属性があつまる場のつくり方～

実施日：11月16日(日) 14:00～17:00

開催場所：加古川まるいビル3階

来場者：36名

スピーカー：はっぴーの家ろっけん代表 首藤義敬氏

内容：首藤氏による講話、ゲストスピーカーとのクロストークセッションなど



【総括】

・各回において企画段階より、地域団体が参加することで、協働による緩やかな継続のある関係性構築のきっかけとなった。事前打ち合わせや準備の過程において、互いの活動内容や想いを共有する機会を重ねたことで、団体同士の理解が深まり、関係性の構築につながった。各回の終了後も参加団体がそれぞれの出展イベントへ参加したり、共同でのイベントを開催するなど、継続的な関わり合いの様子も見られた。

・学生ボランティアや一部の来場者が主体的にあそびを展開し、役割を超えて動く姿が見られた。初めてボランティアに参加する者も多かったが、事前の関わりや当日のサポートにより安心して関われる環境が整い、主体的な関与につながった。

・当日の来場者が、他の来場者に遊び方を教えたり、片付けを手伝ったりするなど、自然と「運営する側」になる場面が何度も見られました。来場者が自由に関われる余地を残しておいたことで、自主的な行動を促し、「遊びを作る側」を体験する機会につながりました。

・シニア世代が、遊びを伝える役割として活躍する場面が多く見られた。主体的に関わりながら、これまでに培ってきた経験や知恵を生かし、遊びを一緒に広げる姿があり、子どもや保護者、学生ボランティアとの自然な交流が生まれていた。

市民による自由演劇倶楽部の推進事業

自由演劇倶楽部 えん

1. 事業が目指すところ

地元神戸や兵庫県の民話を朗読劇風に発表して、地域おこしや地域交流に取り組みたい。地元の民話をさらに発掘していき、その地域の児童館や老人会、カフェ、地域のイベントなどで民話の普及活動を続けるとともに舞台での公演等にも取り組んでいく。また、地域のNPO団体等と連携した社会貢献活動等を通じて地域交流活動に取り組んでいく。

2. 活動内容

1) 地域の初心者の発声練習では大きな声を出すことや滑舌の練習の機会を持ってもらうことで高齢者のフレイルの予防につなげる。12月末現在、延 15 名参加。

2) 月 2 回のメンバーの朗読劇のレッスンは活動の基本で、令和 5 年からプロの演技指導を受けるようになり、一層、技術に磨きをかけるよう取り組んでいる。



3) 朗読劇の外部出演は今年度新たに、地元の地域福祉センター、異業種交流会、からと児童館、中華会館で行い活動の幅が広がった。12 月末現在、8 公演実施、延 234 名参加。4) 豊岡市で地元の朗読劇グループと合同で朗読劇を行うとともに交流を持った。

5) エフエムわいわい(YouTube)で阪神淡路大震災の被災者の想いをテーマにした『震災列車』を配信した。12 月末現在、YouTube 270 回視聴。

3. 成果や課題点

新たに来てほしいとの要望が多く、地域福祉センターや異業種交流団体、中華会館などとの新しい繋がりが生まれた。民話についてはどの世代でも驚くほど知られておらずやりがいがある。

活動が広がるにつれ代表の負担割合が大きくなっている。対策としてメンバー一人ひとりに役割分担をこれまで以上に担ってもらえるような意識改革を行う。一方成果として、脚本作成、衣装づくり、楽器演奏、カメラ・ビデオ撮影、司会など様々な技能を持った方がサポーターとして協力してくれている。

4. 今後の展望、成果の活用

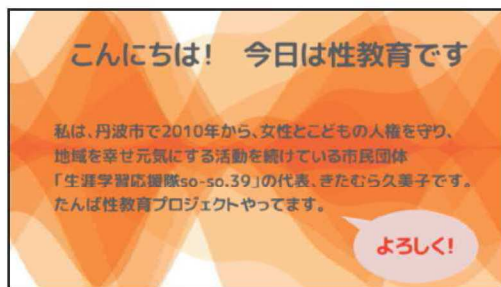
神戸や兵庫の民話の朗読劇を柱にしながら演劇の舞台等に出る機会を通じて朗読劇に磨きをさらにかけていきたい。また、朗読劇だけでなく滑舌練習、健康体操、歌や演奏やダンスを加えて楽しい公演にしていく。これらを通じて地域活性化、地域おこしを一層進めたい。





継続事業の3年目。SRHR=Sexual and Reproductive Health and Rights、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ「性と生殖に関する健康と権利」について地域に伝えること、そしてこれを守ることが活動の目的です。最近の性暴力の増加、若年齢化。法律改正により「同意」が性被害の大きなポイントになっています。被害者・加害者を作らないために、子どもの頃からの正しい性教育が必要です。今年も高校生への出前授業を実施しました。また、広く啓発活動するために、地域のコミュニティFMの番組内で「いのちと性のおはなし」というコーナーを作って放送しています。また、啓発動画を制作してYouTubeで公開しています。それを高校生への授業内容に組み込んで視聴してもらっています。授業も講話だけでなく、動画等を使って説明する方が伝わることを実感しています。グループで作った動画を利用することができたのが大きな成果です。当事業終了までに2～3本は制作する予定です。

◎高校での出前授業



◎高校生の感想

性教育出前授業 アンケート

1 あなたの性別は? 男 女 どちらとも思えない

2 あなたの学年は? 1年 2年 3年

性教育出前授業を受けて、印象に残ったことや感想など、自由に書いてください。

男性性と性暴力が初めて知りました。人間のシンボルやLGBTQの理解が少し深まった気がします。人それぞれがそれぞれ様々だと感じました。

性教育も受けました。



性教育出前授業 アンケート

1 あなたの性別は? 男 女 どちらとも思えない

2 あなたの学年は? 1年 2年 3年

性教育出前授業を受けて、印象に残ったことや感想など、自由に書いてください。

色んな性の分け方があることを知りました。自分も性自認がよくなってから、それについて周りの人から話を聞いたりして、何となく自分自身のことについて考えるようになりました。

親のことについてよく聞きました。両親のことで、性について相談することができるようになることを知ることができました。

授業で使った私たちの
作った動画です
→ご覧ください



性教育出前授業 アンケート

1 あなたの性別は? 男 女 どちらとも思えない

2 あなたの学年は? 1年 2年 3年

性教育出前授業を受けて、印象に残ったことや感想など、自由に書いてください。

プライベートゾーンもよく理解し、自分の体を大切にしたいと思いました。周知の知識として、改めて考えることができました。

自分の身体が大切にされることを知りました。

性教育出前授業 アンケート

1 あなたの性別は? 男 女 どちらとも思えない

2 あなたの学年は? 1年 2年 3年

性教育出前授業を受けて、印象に残ったことや感想など、自由に書いてください。

今回性教育も、色々な分について、自分自身も知ることができました。自分の性自認は、周りの人が正しいと認めてくれることが、とても嬉しかったです。

性教育が、性教育が必要だと知ることができました。

◎ラジオ番組でも啓発活動を行いました

地域の皆さんに届くように
地元のコミュニティFMで
性の話を取り上げました。



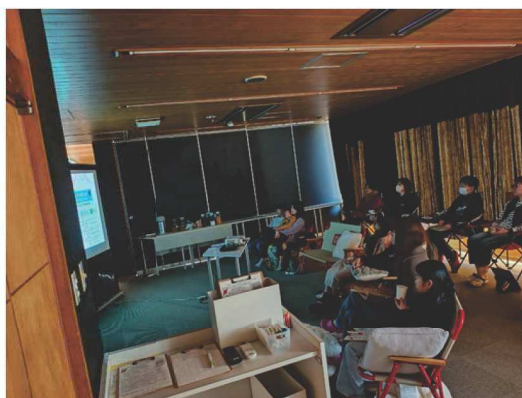
不登校・行きしぶりの子どもたちが、安心して過ごし、自分のペースを取り戻せる居場所として「ひとやすみ」を運営しています。自然の中での体験を通して、心と身体をゆるめ、人との関わりを少しずつ育むことを大切にしています。

春は草木染め、夏は川遊び、秋はピザづくり、冬は自然物リースづくりなど、季節に応じた野外活動を中心に実施しています。



ママたちのこもれびじかんMAMAnoMA

月に一度の保護者のための居場所支援「MAMAnoMA」がスタートしました。子どもの不登校や子育てについて、安心して話せる場として実施しています。情報交換だけでなく、自分らしさを取り戻し、ほっとひと息つける時間を大切にしています。12月は「ママをやめてもいいですか!？」の映画上映会を開催しました。



課題と今後の展望

① 立地・アクセス面の課題と今後の展望

活動場所である神戸三田アウトドアビレッジTEMILは、自然豊かで落ち着いた環境に恵まれており、不登校の子どもたちにとって安心して過ごしやすい場となっています。一方で、最寄り駅から車で約15分と公共交通機関でのアクセスが難しく、送迎が必要となる家庭も多い状況です。

今後は、地域住民や関係団体との連携を深め、送迎ボランティアの協力や移動支援の仕組みづくりを検討していきます。地域の力を借りながら、立地の課題を補完し、より多くの家庭が安心して参加できる環境づくりを目指していきます。

② 資金面の課題と今後の展望

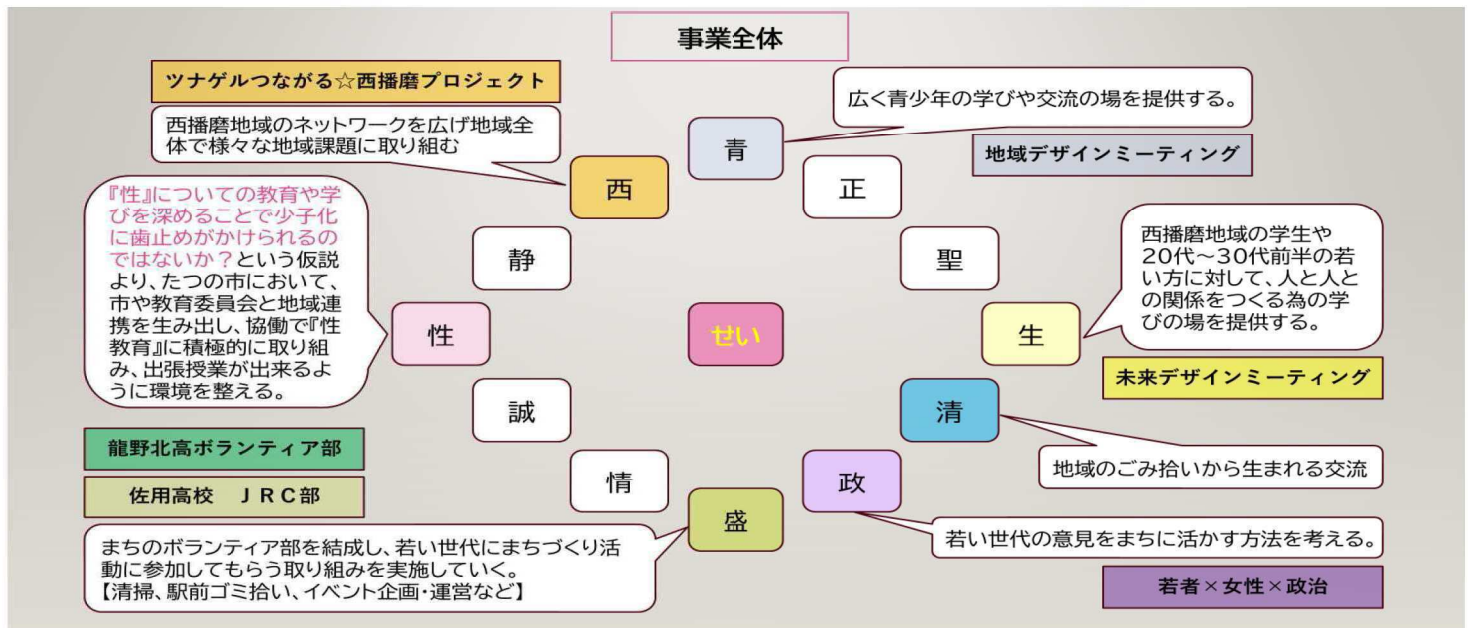
「ひとやすみ」では、経済的な事情に関わらず参加できる居場所であることを大切に、参加費をできる限り抑えた料金設定としています。そのため、日々の活動費や運営費の確保が課題となっています。

今後は、地域企業や団体との協賛・連携、寄付による支援体制の構築を進めていきます。地域と継続的につながることで、安定した運営基盤を整え、活動の質を高めながら、子どもたちと保護者を長期的に支える居場所づくりを目指していきます。

1. 事業が目指すところ

この事業では、『せい』をテーマに様々な取り組みを実施しています。未来を担っていく子ども達に、地域の現状を見て悲観的になるのではなく、明るく楽しい未来を描けるような環境を地域とともに整えていきたいと考えています。そのためには、若い世代の方に明るい未来を描き、将来の夢を持ってもらうことや、人や地域との関わりを深めることが自身の人生においてとても素敵で幸いなる事であると感じてもらえる、そのような取り組みをしていきたいと思ひます。そんな感覚を養い実感してもらえよう工夫をすることで、地元愛を育んだり地域の担い手を生み出していきかけにしていきたい。私たちは、この事業により、新たな少子化対策や関係人口創出など、これまではなかったカタチでの若者支援策を生み出すことで、さまざまな地域課題の解決を目指していきたいと考えています。

2. 活動内容



3. 成果や課題点

教育現場の性教育の充実が少子化対策になるのでは？という仮説から行政や教育委員会、学校などに協力をいただき学校教育の現状を調査することができました。それにより、学校と地域との連携によって生み出される新たな学びの場の可能性を知ることができました。

性教育のみならず、人生設計やキャリア教育を充実させることによって、若い世代の方々が早い段階から将来のビジョンをイメージし目標を設定することができる。それによりその後の就職やパートノ一および家族構成の選択などウェルビーイングな未来を目指していけることが可能になると思ひました。ただ、同時に教育現場と地域との連携を生み出していくことはまだまだハードルが高いとも感じています。学校、家庭、地域、企業などその地域で教育に関わっている方々が一体となってチームを組織し取り組む必要があると感じました。

今後もさらに多様な方に関わっていただきながら、未来を担っていく子どもたちにとって少しでも価値のある有意義な学びの場を生み出せるように取り組んでいきます。

4. 今後の展望、成果の活用

今年度、【せい】をテーマに様々な取り組みを行ってきました。地域や行政との協働・共創事業として若い世代を応援し新たな少子化対策を構築すべくさまざまな調査研究や連携先のつながりも生み出してきました。次年度ではその仲間とともにさらに研究や調査を深めていきながら前に進めていきたいと考えています。次年度では実際に授業を実施できるところまで進めていきたいと考えています。3の課題でも記しましたが、進めていくのは簡単ではないでしょうが、様々なご意見を受け止めながら未来を担う子供たちのために実現できるように努力していきたいと思ひます。今後は、検証結果や評価基準なども定めながら、どの程度少子化対策になっているのかなど数値化（見える化）できるように関係者で協議して進めていきたいと思ひます。



提案

小学6年から中学3年で性教育を含めた人生設計とキャリアプランの授業を実施する！

ウェルビーイングの実現により、子どもたちが明るい未来をイメージできる環境と地域を目指す！

地域と学校とで協働し、このような授業を生み出すことで子供たちに明るい前向きな感情を抱かせ、持続可能な明るい未来を描くことができる！！



「淡路島と神戸を結ぶ新たな拠点づくり3」事業 ～島と神戸をむすぶ「つながりカフェ」～

淡路島でこれからの暮らしを考えるフォーラム(全4回)

認定 NPO 法人ソーシャルデザインセンター淡路

(地域づくり活動NPO 事業)



目的と課題 さまざまな分野の専門家や実践者を交えて、SODA が実践してきた就労困難者のソーシャルビジネスを軸に、それぞれの地域の課題と地球規模での環境問題について多くの方々と考えていく場を提供する。特に今回は、昨年度、連携できた神戸市の荒れ山林への取り組みから都市が抱える課題についても取り上げ、それぞれの課題について互いにできることを考えてみる機会にしたい。また基調講演では山極寿一先生をお招きし、人はなぜ助け合うのか、そのコミュニティの重要性について、今回のフォーラムの根幹に触れていただく。さらに地元の高校生の参画をこれからも進めていきたい。

活動内容

第1回：里海の恵みを考える

日時：令和7年10月25日(土) 13:30～16:00 会場：南あわじ市広田地区公民館3F

趣旨説明：湯本貴和先生(京都大学名誉教授)

基調講演：「持続可能な水産資源管理と海業」石川智士先生(京都府立大学農学食科学部・教授)

淡路島での実践報告：「水産振興と漁村のまちづくり」本丸勝也氏(株式会社まるやまと)

パネルディスカッション ＊質疑応答を含む 参加人数：25人



第2回：里山の恵みを生かすには

日時：令和7年11月23日(日) 13:30～16:00 会場：南あわじ市市地区公民館 講義室

趣旨説明：湯本貴和先生

基調講演：「里山に植札をつけて循環型経済へ」黒田慶子先生(神戸市副市長)

淡路島での実践報告：「獣害対策と地域づくり」水田泰善氏(馬回「清流の里会」代表)

「多機能防災チェアに活かす」洲本実業高校工作研究部

パネルディスカッション ＊質疑応答を含む 参加人数：46人



第3回：「誰ひとり取り残さない社会をめざして」

日時：令和7年12月13日(土) 13:30～16:00 会場：南あわじ市市地区公民館 講義室

趣旨説明：湯本貴和先生

基調講演：「社会的包摂と日本のつながりづくりの課題」福原宏幸先生(大阪公立大学客員教授)

淡路島での実践報告：「共に生きる～おたがいさま中川原活動を通じた地域住民との関り」橋詰一則氏(ふくろうの郷おのころの家)

「誰もが役割のある地域づくり」木田薫(認定NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路)

パネルディスカッション ＊質疑応答を含む 参加人数：32人



第4回 全体会「共感性が地球を救う」

日時：令和8年1月17日(土) 13:30～17:00 会場：南あわじ市広田地区公民館3F

基調講演「共感性の進化と人類の未来」講師：山極寿一先生(総合地球環境学研究所所長、京都大学名誉教授)

パネルディスカッション

コーディネーター：伊藤真之先生(神戸大学サイエンスショップ副室長)

パネリスト：湯本貴和先生(京都大学名誉教授) 鷲尾圭司先生(NPO 法人里海づくり研究会副理事長)

福原宏幸先生(大阪公立大学客員教授) 黒田慶子先生(神戸市副市長)

特別ゲスト：長野ヒデ子先生(絵本作家) 守本憲弘(南あわじ市長)



成果と今後の展望 里海、里山、暮らしの三つの視点から改めて地域の現状や広く世界情勢などの背景にも目を向ける機会となった。また島で新たに取り組んでいる「海業」や神戸市が取り組んでいる「里山プロジェクト」、あるいは聴覚障害者施設が取り組んでいる「地域とのつながり」の実践等、具体的な取組を学び、話し合い多くのみなさんと共有することができた。里山プロジェクトでは、高校生に発表していただき、子どもたちの意見も聞くことができた。県民局をはじめ、行政や専門機関、大学からの参加もあり地域の課題を「我がこととして捉える」そんな機会にもなった。つながりマルシェについては、コメ不足の折、淡路島のお米を神戸で販売することも試みた。今後、就労困難者を対象に農業への参入も視野に入れて活動を展開している。



SODA 地域づくり応援事業

認定 NPO 法人ソーシャルデザインセンター淡路



1. 活動内容・目的

① 相談事業

◎NPO法人、社団等の起業、運営相談、地域連携、地域の課題解決について等

② 情報提供

◎HP、チラシ配布、新聞掲載等で情報を提供する。

◎ネットワークの構築

- ・「淡路ひきこもり等地域連携ネットワーク」の事務局機能
- ・「南あわじ市ひきこもり・不登校のための連携会議」を開催
- ・「新聞エコバッグづくり」を通して南あわじ市内の公民館活動や高齢者のサロン活動、デイサービス施設との連携、また洲本市社協、南あわじ市社協との連携事業を実施
- ・兵庫県立洲本実業高校、京都大学地球環境学堂等の連携事業を実施
- ・神戸市、南あわじ市、洲本市、淡路市教育委員会との連携など多数

③ 人材育成

◆地域づくりの人材育成や地域における豊かな人間関係を築くことなどを目的とする。

◎令和 7 年度地域づくり応援セミナー（1）

第 2 回「淡路島の歴史から学ぶ 島の暮らし～南淡路の歴史～大和政権とみはら～」(参加人数：19 人)

日時：2025 年 10 月 12 日(日) 講師：武田信一先生（郷土史家）

第 3 回「淡路島の歴史から学ぶ 島の暮らし～南淡路の歴史～武土の時代と三原～」(参加人数：25 人)

日時：2025 年 11 月 2 日(日) 講師：武田信一先生（郷土史家）

第 4 回「淡路島の歴史から学ぶ 島の暮らし～南淡路の歴史～阿波藩の支配と三原～」(参加人数：50 人)

日時：2025 年 12 月 21 日(日) 講師：武田信一先生（郷土史家）

第 5 回「淡路島の歴史から学ぶ 島の暮らし～南淡路の歴史～三原の近代化～」

日時：2026 年 2 月 1 日(日) 講師：武田信一先生（郷土史家）

◎令和 7 年度地域づくり応援セミナー（2）

「親子で楽しむワクワクファミリーコンサート in 淡路島」(参加人数：152 人)

日時：2025 年 11 月 30 日(日)

出演者：あおきひろえ先生(絵本作家)鈴木翼先生(あそびうた作家)ガーガーズ(うたあそびユニット)

④ 書類作成指導

⑤ その他

◎第 18 回これからの島の暮らしを考える市役所



成果と今後の展望

◎地域づくり応援セミナー「歴史」昨年度に実施した歴史講座の続きを 4 回実施。講師先生が高齢のため、その貴重なお話を後世に残したいと南あわじ市ケーブル TV、教育委員会等との地域連携をとり、すべての講座を収録している。写真等も加えて編集し、市内と図書館はもちろんのこと、各中学校や公民館でも視聴できるようにして地域の歴史に触れてふるさとへのアイデンティティを高め、地域づくりへの意識を高めてもらいたいと考えている。参加者からは、多くの賛同の声をいただいている。

◎地域づくり応援セミナー「ファミリーコンサート」新しい取り組みとして「親子」をテーマに試みた事業。こうした親子向けのコンサートが島内ではほとんどなく体験できない中で「芸術・文化」を通して子育て支援ができないかと開催したところ、お父さんやお母さん、子どもたちの笑い声があふれ予想以上の成果があり、多くの感想が寄せられた。

次に第 18 回島の市役所は、今年度は湊地区で開催予定。昨年、一昨年と今年で 3 回目となるが「空き家対策」について開催した地域では、これをきっかけに街が動き出しているといううれしい報告を受けている。当日は市役所として提供できる制度についての紹介する予定。「これからの島の暮らしを考える市役所」がめざす参画と協働の形が今回も実現する。

◎ネットワークの構築は、SODA の得意とするところだが、不登校のお母さんたちが中心となって活動を展開している「新聞エコバッグづくり」が、地域の中でどんどん広がっており、今年度の活動がきっかけとなり来年度は、公民館活動のプログラムになる。

また、実業高校との連携事業が京都大学の支援を受けて「防災ベンチ」の島内での普及活動へと展開していくことが検討されている。

ユースセンター設立に向けた若者委員会

NPO法人Dive in!

- 目的

近年、不登校や孤立、相談先の少なさなど、若者を取り巻く環境は厳しさを増しています。家庭・学校以外に安心して過ごせる「第三の居場所」が不足しており、「どこにも居場所がない」と感じる若者も少なくありません。

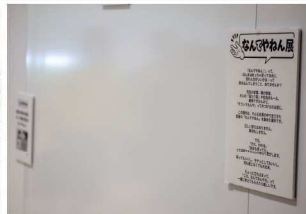
本事業では、10代～20代前半の若者自身が主体となり、若者が安心して過ごせ、やってみたい気持ちを大切にできるユースセンターの設立を目指しました。若者が話し合い、試行錯誤しながら場づくりに関わることで、「自分たちの居場所を自分たちでつくる」経験を積むことを目的としています。

- 活動内容

若者委員会「STARDASH」を立ち上げ、若者が主体となって定期的な話し合いや視察、まち歩きを行い、ユースセンターの構想を整理しました。

また、地域イベントや出張ユースセンターを通じて実践を重ね、若者や地域の声を集めながら、居場所づくりのあり方を検討しました。

日程	取り組み名	内容	参加人数
月1～3回程度	若者委員会打ち合わせ	ユースセンター設立に向け、若者主体で定期的な話し合いを行い、イベント企画や居場所のあり方を検討した。	若者委員会 8名
随時	視察・まち歩き	他地域ユースセンターの視察やまち歩きを通して、運営方法や立地、場づくりの要素について学んだ。	若者委員会 8名
4回	出張ユースセンター	公共施設や地域拠点を活用し、若者が安心して過ごせる居場所を実践的に開設した。	46名
6回	地域イベント参加・発信	地域イベントや大学等に参加し、活動紹介や交流を通じてユースセンターの必要性を発信した。	106名
随時	拠点検討・運営準備	ユースセンター設立に向け、候補物件の検討や運営体制づくりを進めた。	若者委員会 8名



- 成果

- 若者が主体となって企画・運営・発信に関わる体制を構築できた。
- 出張ユースセンター等を通じて、学校外で若者が安心して過ごせる場を複数回実施した。
- 若者から「理由がなくてもいい場所がほしい」「放課後に行ける場所がない」といったリアルな声を集め、場づくりの方向性を明確化できた。
- 地域住民や支援者、行政関係者とのつながりが生まれ、ユースセンターの必要性を共有できた。
- 若者自身が「考え、伝え、形にする」経験を重ねることで、自信や主体性の芽生えが見られた。

ヨット体験を利用して海洋プラスチック問題を伝え・学ぶ

■ 事業実績と成果（協働3団体）

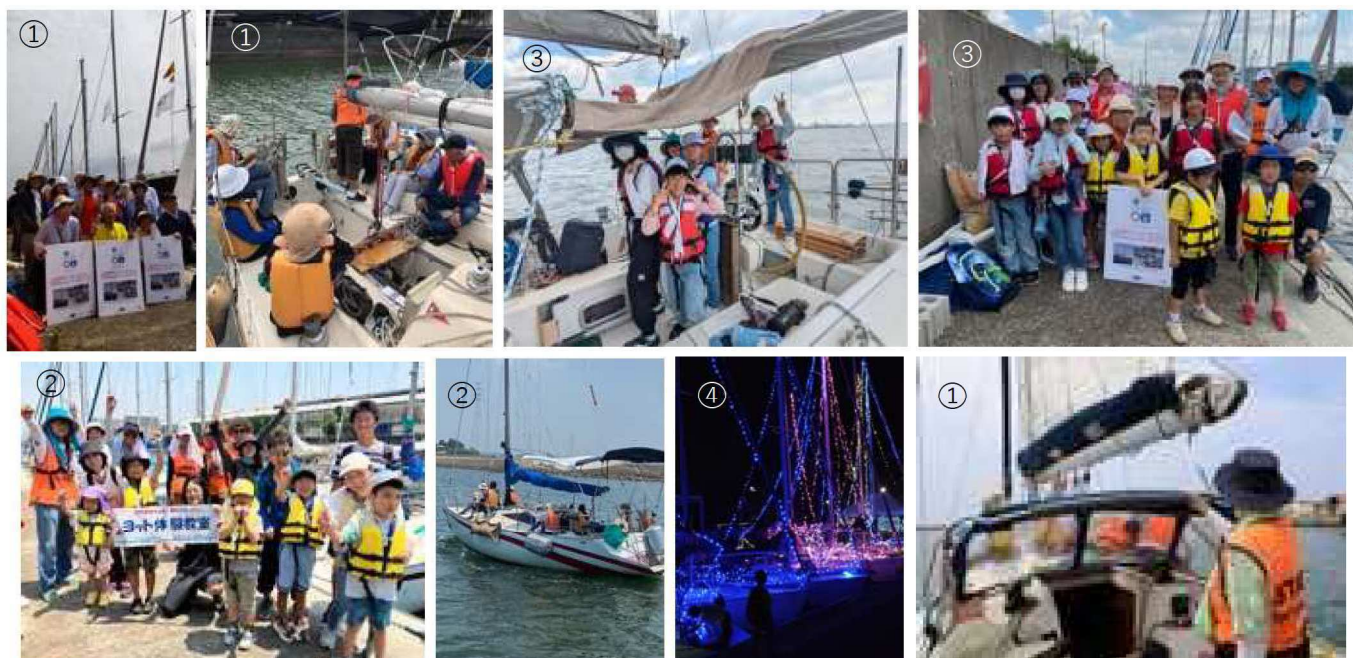
- シニア海のサロンとヨット体験：高砂地区まちづくり協議会参加者に播磨灘でヨット体験をしながら北前船と同じ原理で動くことを操船体験したり海上交通法等を学習。また工楽松右衛門が築港した高砂港口と加古川と接する「東風の請波止」が土木関連の遺構認定されたことを紹介。ヨットキャビンでの海のサロンを開催、海洋マイクロプラスチックの現状をテキストで学習しながら意見交換をしました。参加者とスタッフ21名
- 支援の必要な人のヨット体験：高砂市社会福祉協議会とで障がい児にヨット体験、保護者に海洋マイクロプラスチックの実情を伝える。目の不自由な子どもには頬や髪に受ける風からヨットが進む方向を決め自身で舵を操作しセーリング体験をして貰う。我々もブランドセーリングを経験させて頂く。大人の障がい者にはキャビン見学をして貰いました。社協職員と小中学生対象の既存行事に向島公園砂浜に漂着するマイクロプラスチックを拾い集めモノづくりに使いながら海の環境を学べる取組みを取入れる等の意見交換した。参加者とスタッフ50名
- ガールスカウトヨットと海の環境を伝え考える体験：同高砂団の小中学生にヨット操船体験と子ども海のサロンでマイクロプラスチックの学習をする。ヨットが風で動く原理・海象・コンパスを使いを操船体験をして貰う。指導者との意見交換も多く、プランクトンネットを利用したマイクロプラスチックや海の微生物の採取についてはこのガールスカウトで試行した経緯もある。参加者とスタッフ21名
- たかさご万灯祭参加の外来セーラーに海の環境を伝える：たかさご万灯祭参加のセーラーに海の環境テキストを配布して海洋マイクロプラスチックの現状や海洋ごみ問題を「伝える」。昨年はヨットレースの艇長会議でレースセーラーとでテント座学を実施したが今年はレース中止のためテキスト配布とした。参加者とスタッフ65名

■ 継続・進展

3年間の事業助成支援を受けたヨット体験、海の環境を学ぶ、郷土の歴史に触れるプログラムのアップデート。

- 今期は小学中学男女3名が定期学習に参加されたので定期学習のプログラム（ヨット操船教本、海象等のデータ記載レポートフォーマット）等を再整理した。5回を終えた総括では小中学生からヨットで船酔いするが続けたいとの意見、保護者からは進級で忙しくなるが広く浅くで良いので体験学習の継続を希望するとの意見を頂く。
- 高砂市観光交流ビューロー協働の「海のサロンとヨット体験」は今期に入り参加応募者が増えてきた。工楽松右衛門旧宅の見学来高者にヨット体験を提供、ヨット操船等の体験しながら、郷土の歴史や海の文化に触れて貰い海の環境テキストで環境問題を考えて頂くメニューである。「環境を観光に」環境を観光資源にする基本コンセプトをブラッシュアップしながら、地域貢献の一助となるよう継続したい。
- 東播磨県民局環境課はヨット体験と海の環境学習をネーミング化され継続実施、理科講師を工楽松右衛門旧宅の奥座敷に招き車座環境教室を開く。参加者は旧宅見学では外板塀が江戸時代の高瀬舟底板を再利用していること等に触れられる。まさにSDGsの先取りを江戸時代に成しているなどを現地・現物で知る。地元団体や行政組織等とで播磨灘等の自然を含め周辺にあるものを工夫、活用していきます。

■ 活動の記録写真（①シニア②支援を必要な人③ガールスカウト④たかさご万灯祭セーラーとの活動）



地域づくり活動 NPO 事業助成
もったいないをみんなで笑顔へ（フードシェアリング事業）

認定 NPO 法人宝塚 NPO センター

1. 事業が目指すところ（事業の目的・社会課題）

地域との繋がりを活かした食料支援を通じ、生活困窮者の自立を後押しするとともに、食品ロス等の社会課題を共有したい。地域住民や企業と共に、困っている方を支え合う仕組みを構築し、将来にわたって持続可能な支援のネットワークを広げることを目指す。

2. 活動内容（以下の内容で食品回収と配布会 4 回を開催）

	食品回収		配布会（配布会場所：宝塚市立男女共同参画センターエル）			
	回収期間	回収量	開催日	参加人数		ボランティア参加者数
1	5/27～6/28	140.9kg	6/28	48 名	相談件数 0 件	市民ボランティア 17 名 (若者ボランティア含む)
2	7/29～8/30	194.6kg	8/30	41 名	相談件数 1 件	市民ボランティア 15 名 (若者ボランティア含む)
3	9/30～10/29	133.2kg	10/29	32 名	うち相談件数 0 件	市民ボランティア 17 名 (若者ボランティア含む)
4	12/1～12/24	68.0kg	12/24	38 名	うち相談件数 2 件	市民ボランティア 13 名 (若者ボランティア含む)

※助成期間 3 年間で繋がった企業・団体：12 社

※食品回収ボックス設置箇所数：5 団体（当団体含む）

3. 成果と課題

《成果》

今年度は食品回収・配布を通じ、中間支援のハブ機能を確立した。
新たに回収ボックス設置箇所が 2 団体、協力企業も増加し、
多様な食品を配布会や子ども食堂へ届ける体制が強化された。
学生からシニアまで幅広いボランティアの方が多く参加し、
地域で困窮者を支える仕組みを周知する機会となった。
今後も企業や市民との繋がりを維持し、支援の輪をさらに広げていきたい。



《課題》

地域での新たな支援団体の立ち上げや、活動の普及が十分に
進まなかったことが最大の課題。配布方法についても多くの意見を頂いたため、
運用の改善が求められる。一方、食品提供を機に地域の方が子ども食堂へ
参画する等の前向きな変化もあった。今後も働きかけを続け、
担い手の発掘に注力したい。



4. 今後の展望

今後は地縁団体への周知を徹底し、地域が主体的に動く仕組みを広く浸透させていきたい。
また、早急に新たな担い手の発掘とノウハウ共有に注力し、企業連携による支援の輪を拡大。食料支援
を通じ困窮者の自立を後押ししながら社会課題を共有し、持続可能な支え合いの構築を目指す。

干し文化を守れ!わかめ干し若返りプロジェクト

NPO法人たけのかぞく

たけのかぞくについて

私たちは、兵庫県の最北端、豊岡市竹野町で、地域への移住促進をメインに活動しています。

また、竹野の町並みや文化など、「消えそうだけど守りたいもの」を次世代に伝承するための活動も行っています。

本事業では、そうした文化の一つ、「わかめ干し」を守るため、今年はわかめの干し手だけでなく、わかめを採取する「磯見漁師」の育成に注力しました。



事業の目的

「わかめ干し」文化の従来のスタイルを見直し、わかめを採取する「磯見漁師」を若い担い手が継承しやすいかたちを模索することにより、竹野の春の風物詩を守ること。

また、若者が地域の産業に関わることにより、地域に対する誇りを育むこと。

活動内容

●「磯見漁師」の育成

本事業では、磯見漁師を育成するため「たけの漁師塾」を開催し、定員である5名が参加した。

【たけの漁師塾 開催内容】

2025年10月12日(日) 9:00～13:00

座学:漁法の種類、漁船や漁業権の取得方法、必要な道具や初期費用についてベテラン磯見漁師が講義。写真1

見学:漁師と漁船に乗り、磯見漁の現場（今回は季節の関係でサザエ漁）を見学。写真2

交流:帰港後は漁師が参加者からの質問に答えながら、海鮮BBQで交流。写真3

●販促資材の制作

昨年度事業で商品化した乾燥わかめ「竹野浜天然わかめっ娘」の店舗設置用大型ポップ(A3判)をデザイン・制作した。ポップには地域の魅力と商品の特色がよりよく伝わるよう、方言やイラストを盛り込んで工夫した。写真4



今後の展望

たけの漁師塾の参加者のうち、1名が来春には漁業権を取得するために既に動きだしている。

ただし、磯見漁師としていきなり専業で生業にするのは難しいため、他事業と複合的なプランを立てる必要がある。

来年度以降は、この新たな漁師の挑戦に密着することにより、その課題を洗い出し、さらなる新規漁師の育成や移住につなげていきたい。





特定非営利活動法人 但馬を結んで育つ会

当会は、10年後も安心して暮らせる但馬地域をつくるため、医療・福祉を起点とした領域横断的なまちづくりに取り組んでいる団体です。

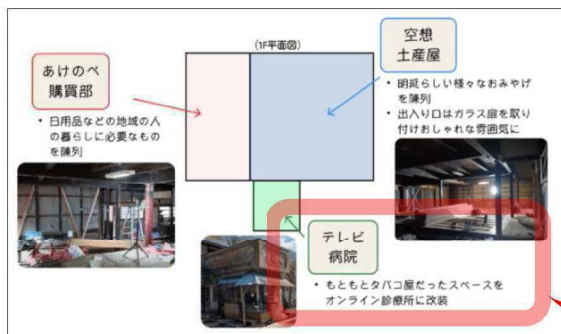
オンライン診療・福祉相談窓口（テレビ病院）設置事業

事業概要

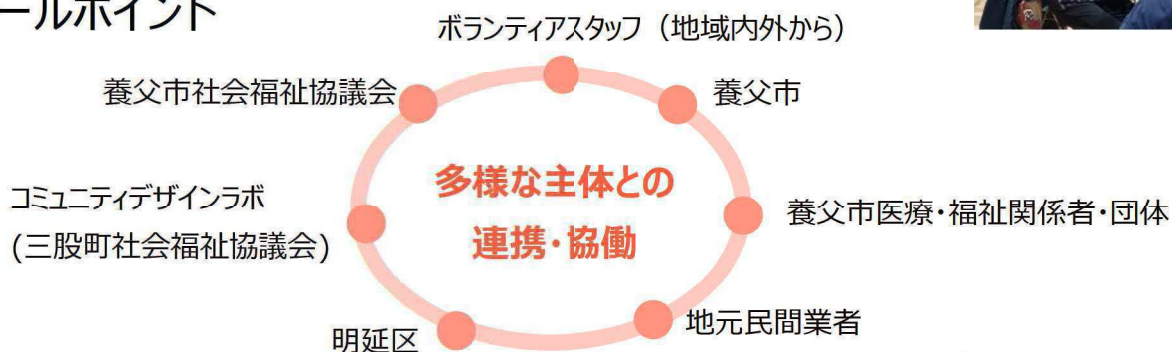
限界集落、明延地域
 （養父市）にある空き家
 （旧小林たばこ店）

多様な機能をもつ
 拠点へと再生させる

多様な機能の中核に、
 オンライン診療・福祉相談窓口
 （テレビ病院）を実装させる



アピールポイント



ここまでの活動の流れ

- 2024年5月 実行委員会を組成
- 2024年9月～ クラウドファンディング実施
- 2024年10月～ 空き家改修作業スタート
- 2025年6月～ 小林たばこ総合会館オープン



NPO 法人たんぽぽルーム 「地域交流広場～地域ぐるみの子育てを～」

<目的>

近年、子育て環境の急速な変化は著しく、幼児教育無償化や働く親への援助など良い方向性のものもある。反面、親子で過ごす時間が減り乳幼児期に必要な経験や体験ができにくく、子どもとのかかわりに悩む親も増え、地域でのつながりの希薄化は進む一方である。

同じ地域に住む親子同士、子ども同士が気負うことなく集える居場所を作り、地域住民との連携を大切にしながら地域ぐるみでの子育ての基盤を作っていき、子育ての不安解消に努める。

<活動内容> 開催場所…宝塚市立共同利用施設安倉会館

◎「地域ぐるみの子育てを」を目当てに地域交流広場を開催する。

★「ベビーたんぽぽ」（4月～12月延べ大人80名子供77名 計157名 1月2月開催予定）

・対象…赤ちゃんから幼稚園前までの親子 月2回（4～7月、9～2月）20回

・内容…子育て相談・遊びの広場・絵本の読み聞かせ・わらべ歌・製作など



親子でほっこり遊びます。 みんなで絵本の読み聞かせ。保健師来園。身体測定。 子育て相談。

★絵本の読み聞かせ会 宝塚市立共同利用施設安倉会館

7月28日（大人3名子供11名）8月20日（大人3名子供16名）

・対象…赤ちゃん～大人まで誰でも

・内容…自分の好きな絵本を見つける。絵本の読み聞かせを聞く。折り紙に挑戦する。

★「安倉会館に花を植えよう！～みんなで遊ぼう」6月28日（大人6名子供24名 計30名）

・対象…赤ちゃん～大人まで誰でも

・内容…安倉会館にお花を植えたり、遊んだり、紙芝居を見たりしよう。

★「歌とお話を楽しもう！」11月28日（12名）

・ストーリーテラーのお話をみんなで楽しもう。

★「人形劇を観よう！」12月16日（14名）

・人形劇団の人形劇をみんなで楽しもう。



人形劇。



花壇づくり。



ストーリーテラーお話。



絵本の読み聞かせ会。



地域の紙芝居ボランティア。

<成果・課題・展望> ○ 同じ地域に住みながらなかなか顔見知りができない親子が集い、一緒に遊んだり話したり出来る場所として定着していった。市の保健師や児童館、幼稚園との連携も出来つつあることは心強く、地域ぐるみで子育てを支える体制づくりが出来つつある。地域のシニア層の方にはなかなか広がりにくかったことが課題である。今後はさらに赤ちゃんからシニアまでが集えるような機会や場を工夫して作っていき、地域で繋がり合い「地域ぐるみの子育て」を大切に取組んでいきたい。

地域の活動団体・企業の“思い”を掴み、寄り添うためのアウトリーチ事業

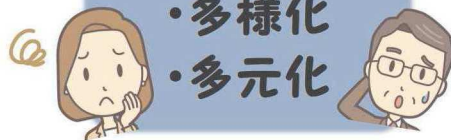


NPO 法人地域づくりパートナーズ ～つなげ・よりそい・そだてる～

- ・認証…令和7年6月
- ・設立…令和7年7月
- ・所在…尼崎市南塚口町(阪急塚口駅南)
- ・代表理事…二宮毅行

社会・地域を取巻く状況

- ・複雑化
- ・多様化
- ・多元化



尼崎市の状況

- ・「市民活動センター」がない!
- ・中間支援団体が弱い…
- ・タテ割り行政の限界…

多くの
イベントで
賑わう町
だけど…

団体立上げ
や運営はど
こに相談す
るの…?

その相談は
別の窓口
になります!

あらゆる相談に対応できる
仕組みづくり

ネット
ワークの
必要性
全方位
対応型

連携

◆まちづくり井戸端会議in立花◆

- ・福祉従事有資格者
 - ・NPO 団体代表者
 - ・行政書士
 - ・司法書士
 - ・相続診断士
 - ・FP
 - ・不動産関連有資格者
 - ・防災士
 - ・子育て、高齢者、外国人支援
 - ・行政パーソン
- など各分野約50名の“エキスパート集団”

1.初年度(令和7年度)の取組

- ①地域づくりパートナーズの周知、PR活動
- ②尼崎市内のNPO法人の訪問(現状&課題へのアウトリーチ!)
- ③講演会の開催(11/18…生駒市小紫市長)
- ④交流会の開催(2/19 予定…NPO 団体、行政パーソンなど)

※取組み事業②…尼崎市内のNPO法人アウトリーチの現状報告(12/末)

- ・内閣府 NPO ポータルサイト掲載法人数:124 法人
- ・解散・認証取消先:17 法人
- ・対象外(当法人含む):3 法人
- ・実質法人数:104 法人
- ・訪問先:45法人、訪問予定先:5 法人
- ・合計:50 法人(訪問率:48%)
- ・Tel、郵送、メールによるアプローチ未応答先:23 法人
- ・謝絶先:3 法人

2.次年度(令和8年度)の取組

今年度のアウトリーチ事業の集計・抽出・分析

- 「行政課題、企業課題に対しての提案型事業」を重点取組み
- 企業の CSR 活動への橋渡し、行政施策の出口サポートを行っていく
- 地域の課題解決に向けた取組みを推進!

助成事業名：いつでもお元気で!近隣助け合い運動

NPO法人 鶴甲サポートセンター

■事業の概要

鶴甲地域はエレベーターのない集合住宅が多く、高齢者や障がいのある方、単身世帯にとって日常生活の中の「ちょっとした困りごと」が大きな負担となっています。本事業では、そうした生活上の困りごとに対し、地域住民同士が支え合う仕組みを整え、有償ボランティアによる生活支援を通じて、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりを目的として実施しています。

■主な活動内容

- ゴミ出し・家具の移動・電球交換・草刈り等の生活支援
- 地域通貨（サポート券）を活用した有償ボランティア活動
- 支援活動を通じた見守り及び安否確認
- 民生委員・あんしんすこやかセンター等との連携

支援を受ける側・支援する側の双方が地域の一員として関わることで、顔の見える関係づくりと地域内のつながりの強化を図りました。

■実施実績

【生活支援の実施】

- ご家庭玄関口からゴミステーションへのゴミ出し
- 家具の移動・電球交換・草刈りなど、日常生活に密着した支援を実施

【ゴミ出しカレンダーの作成・配布】

鶴甲地域向けゴミ出しカレンダーを作成し、年4回発行しています。

作成部数： 400 部

- 配布先： ① 鶴甲コーポ 1号館～37号館
各管理組合の掲示板
② サポート登録会員宅
③ 鶴甲会館
④ 鶴甲福祉センター

ごみ出しルールの周知に加え、鶴甲サポートセンターの活動を知ってもらう機会となり、支援の相談や見守りにつながるきっかけづくりとして活用されました。

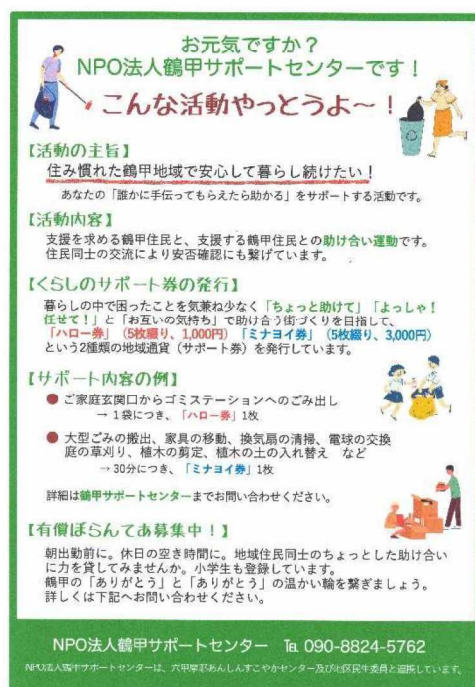
■事業の成果

本事業を通じて、地域住民同士の交流が促進され、日常的な声かけや見守りの機会が増加しました。また、支援活動に参加する有償ボランティアにとっても、地域に貢献できる場となり、生きがいや役割意識の醸成につながりました。

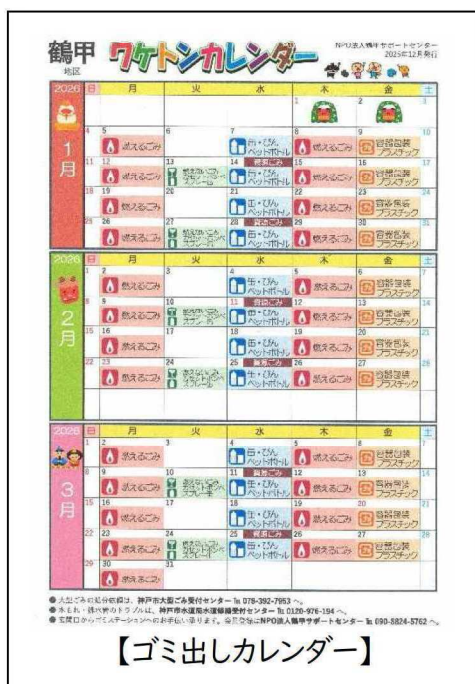
■今後の課題と展望

今後は、高齢化の進行に伴う支援ニーズの増加が見込まれる一方、担い手となるボランティアの確保や継続的な参加が課題となっています。引き続き、関係機関や地域住民と連携しながら、誰もが安心して暮らし続けられる鶴甲地域を目指して活動を継続していきます。

連絡先：NPO法人鶴甲サポートセンター TEL 090-8824-5762



【ゴミ出しカレンダー 裏面】



【ゴミ出しカレンダー】

「耕作放棄地を解消し、里山を再生。過疎地域に賑わいを。」事業

Toyooka AgRestart

1 事業目的

人口減少・少子高齢化において、地方都市の担い手が不足し活力が失われている。この状況は今後も続き、農地を含む里山の荒廃が進んでいく。地域や農地の担い手が減少している地域の耕作放棄地を解消し、兼業農家や非農家が持続可能な形で農地を担い、都市部からの体験交流を促し活力を創造する。

兼業農家や非農家が手を取り、地域農業を通じた地域の活性化につなげる「農ある暮らしの再発見」を通じて、持続可能な地域づくりを展開する。地域固有の取組みであるコウノトリの共生や支えあう地域づくりを社会実装する。

2 活動内容

(1)里山の再生(耕作放棄地の解消・地域住民との交流)

人口減少、少子高齢化に起因する地域の担い手不足による農地荒廃を解消し、県民の美しい農村を次代に繋ぐ。兼業農家の相談会も定期開催。



(2)「農ある暮らし」の再発見事業

人口減少や農業を取り巻く厳しい環境(農産物の取引不安定等)により離農が増える地方農業の担い手を維持するため、兼業農家や非農家の農業への接点づくりを展開する。神河町のゆず収穫ボランティアイベントや加工から販売の仲介などを実施。各所で柿が大豊作であったが、放置される方が多く、熊が出没する危険性もあり、収穫ボランティア実施。



3 成果・課題点

成果:活動エリアの耕作放棄田 21 枚約 1.9ha を復田し、地域や地権者へバトンを渡しました。地権者や地域が農地の維持に対して意欲的に取り組まれることとなりました。地域の離農した兼業農家や非農家の方々に、農業に関心を持っていただける機会となり、活動に関心を持っていただける方が増えました。

課題:社会課題となっている地方農業の衰退(担い手不足、耕作放棄地増、共同作業の衰退、食料自給率問題等)について、具体的な解決策を提案し、実装する推進役が必要であり、周知不足。

4 今後の展望・成果の活用

2025 年度参画者に継続して関わってもらえるよう SNS 等でコミュニティ化し、活動情報を共有。対外的な情報発信力も向上させる。地域コミュニティ組織との連携を深め、住民主体の活動とし、伴走支援体制を強化。組織の法人化。

1 団体名 灘オヤジラボ

2 助成事業名 ひょうごボランティア基金地域づくり活動NPO事業

3 主な活動

(1) 研修講座

主に定年退職を迎えた者が、地域での新たな仲間づくり、生きがい発見、地域での活動の場づくり等の活動をする為の研修



(2) 灘区事業及び灘区社会福祉協議会事業への参画

なだ桜まつり（4月）、灘・夢ナリエ（9月）、
難の酒「西郷」歴史探訪ツアー（11月）、
サンタボランティア（12月）など



(3) 自ら考案・企画・実行するイベント

地域案内マップ作り、ガイドウォーク、地域住民の交流活性化支援、ファミリーものづくり教室、
レコード鑑賞会、王子動物園内の案内ツアーなど



生きづらさを抱えた子どもの学習サポート事業

特定非営利活動法人 西脇てとて広場

1. 事業の目的

不登校や発達特性があって、家ではなかなか1人で学習が進まず、学校でも家庭でもしんどい思いをしている小中学生の学習意欲向上と、「わかった」「できた」という達成感によって自己肯定感アップを図る。また週1回学習することを習慣づける。その他のてとて広場開設時間においても、子どもの状況に合わせて、学習のサポートを行う。

2. 活動内容と成果

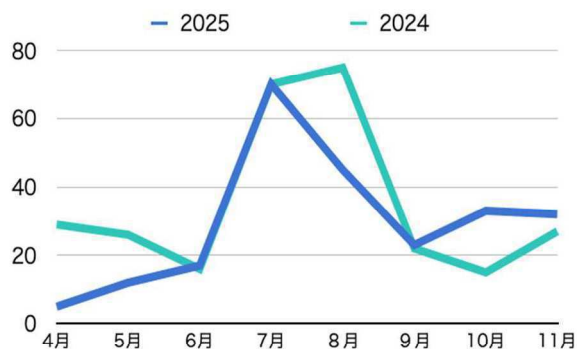
毎週水曜日の17時半～20時にてとて広場において開催。4月～11月までで32日間行い、参加者数159名。夏休み期間中は8回開催し、のべ77名が参加した。

日本語がむずかしいため学習についていけない外国人や、知的障がい、発達特性などで学習することがむずかしい子どもたちが前向きに学習できるよう、教材も工夫した。

指導者が1人に向き合って、やっと学習に取り組む子どもがいて、後半は先生の人数が増えた。中学生になったばかりの1年生が参加し、試験勉強の方法がわからず困っていたが、学習サポートの効果があって、成績が伸びた。

学習サポートをはじめて5年目になるが、これまで居場所機能の面が強く、学習する機会の提供にはなっていたが、成績が伸びるところまでは届いていなかった。今年度から、高校生を除き、小学生と中学生で、場所を別にして、集中しにくい部分の環境調整から行ったことで、成果となった。

夏休みは、10名定員とし、普段遊びの場となっているてとて広場では、遊具等があって集中しにくいので、別の施設を借りて、「学習すること」を定着させた。なかなか宿題が捗らない子どもたちも、指導の先生に丁寧にみてもらって、取り組んでいた。



3. 課題と今後の展望

来年度からは、市が発行することも未来応援のクーポンを使用する就学援助対象家庭の子どもに、学習の個別支援を行う予定。

これまでは、経済的、発達特性、不登校の課題をもつ子どもたちをいっしょにサポートしていたが、それぞれのタイプに分けた事業にすることで、収入につながり、サポートを受ける子どもや家庭側にも、安心感が得られるよう事業の再構築を行う予定。



『親子で楽しく体験活動』『代休日児童居場所作り&健全育成』支援事業

特定非営利活動法人 ハッピーキッズひがし

1. 事業が目指すところ

3歳児以上保育料無償化を受けて、保育園利用者の低年齢化が加速している。親子で過ごす時間減少が、身体の発達だけでなく、心の発達に影響を及ぼしているように思われる。様々な体験をすることで、身体・運動能力・音感の土台を作り、また親子ふれあいの時間をしっかりとつことで、情緒の安定が図られることを目指す。音楽や人形劇、リトミック等本物に触れ、実際に身体で感じ、身体を動かすことは重要である。さらに、簡単に覚えられよう遊び・歌を紹介し、その場限りではなく、家に帰ってから同じように遊べるようになることを目指す。

小学校休日行事の代休日(平日休み)には、児童センターが休館日で、雨でも遊べる場所がない。給食もないので、働く親にとって、平日の休暇は心配であり負担である。こどもの中には、昼食が用意してもらえない子もある。そうした子どもの昼食付居場所を提供する。また、そうした遊び場で電子機器を禁止し、子どもたちで考えてコミュニケーションをとりながら遊べるようにする。

いろんなことを体験できる場、話をできる場を作り、楽しく子育てができ、子ども達が心身ともに健全に育つような支援が必要である。

2. 活動内容

●親子体験活動の実施

➤ 親子リズム体操&お話会

(社協東支部子育て支援事業、東公民館講座)

【お話会】5月1日 大型絵本『たまごのあかちゃん』

- 7月3日 大型絵本『はらぺこあそむし』
- 9月4日 ペープサート『ぐりとぐら』
- 11月6日 ペープサート『くいしん坊のおぼけの子』
- 1月8日 ペープサート『ももたろう』



ペープサート『ぐりとぐら』



大型絵本『はらぺこあそむし』



マジックショー



わらべ歌遊び

➤ うちわ祭り&マジックショー:6月29日(姫路市立東公民館)

(東光児童センター、地域組織活動クラブ 共催)

マジシャン Dr.JIN 山田こどもクリニック院長先生

➤ わらべうた&童謡&ふれあい遊び:5月28日・10月22日

(東光児童センター)



人形劇とふれあい遊び



人形劇とふれあい遊び

➤ 親子リトミック(10月27日・11月10日)

➤ 人形劇とふれあい遊び:11月26日

(東光児童センター地域組織活動クラブ 共催)

北児童センター地域組織活動クラブ 人形劇クラブ『スマイル マム』

- ・人形劇『はらぺこあそむし』
- ・できるかな体操 他



親子リトミック

➤ 音楽遊び:1月30日予定

- ・音楽とふれあい遊び 『ほのぼのさん』

➤ ワクワクカーニバル&オカリナ演奏:2月15日予定

(姫路市立東光児童センター・地域組織活動クラブ 共催)

オカリナ演奏 シニアさんグループ

代休日遊べるデー(給食)



代休日遊べるデー

●児童の居場所作り

➤ 代休日遊べるデー:近隣小学校の行事代休日に給食付きで遊べる場所を提供。

11月4日(火)・2月2日(月)予定



3. 成果や課題点

社会福祉協議会、公民館、児童センター、姫路市地域組織活動クラブ、いきいき百歳体操、すこやかセンターなど、地域全体を巻き込んで事業を実施した。親子リズム体操でのお話会も定着してきて、参加者も増えているように思われる。『人形劇とふれあい遊び』では、シニアさんと幼児さんとの交流も図れ、シニアさんが大変喜ばれていた。『代休日遊べるデー』では、子どものあるべき姿を垣間見れた。自然に、上級生がみんなを引っ張りまとめて、時間を共有することができた。

課題としては、11月末は保育園や幼稚園で体験保育等と日程がかさなり、集客が難しかった。

代休日イベントは、もっと他校区にも展開したいが人手、財源の確保が難しい。

NPO法人場とつながりの研究センター

三田市や神戸市北区、西宮市北部の「裏六甲エリア」を中心に、まちのさまざまな「意欲する人」がゆるやかにつながれる場を作ること、地域活性化・まちづくりを行っています。

裏六甲エリア（三田市、神戸市北神地域、西宮市北部、北播磨）

NPO支援 人材育成

- ・ 立ち上げ・運営相談
- ・ バックオフィス支援
- ・ 認定NPO取得相談支援
- ・ 講師派遣・人材育成
- ・ 講座・研修企画

まちづくり ネットワークづくり

- ・ 裏六甲居場所ネットワーク
- ・ まちの読書カフェ
- ・ フューチャーセッション
- ・ 食料倉庫・ミニフードバンク
- ・ 食料配布企画等
- ・ SENプロジェクト(参加支援)
- ・ さんの ええひと ネットワーク

子ども・若者 家族まるごと支援

- ・ 寺子屋「まなびあ」(2種)
- ・ 子ども食堂(4種)
- ・ 親支援
- ・ 若者SNS相談
- ・ オンライン居場所

キーワード

支援者支援 ネットワーク マッチング 環境をほぐす 協働

大切な価値

声を聴く つなぐ 参加を促す(役割シャッフルetc)

※在住外国人支援(地域日本語教室、アトリー相談支援、多言語情報誌作成など)は2025年10月より新団体HANS Treeにて活動

相談支援 人材育成

- ・ NPO法人をはじめとした、非営利団体・法人の設立から解散までの相談支援に取り組んでいます。(8団体の支援)
- ・ バックオフィス支援の中では会計相談が最も多く、孤立状態にある代表や会計担当者を勇気づけるとともに、団体に合った方法での対応策を検討しています。
- ・ 支援者一被支援者の関係に固まらないよう、相談者の個性・特徴を理解した粘り強い対話が必要です。そこで、「対象者の『強み』を理解するための支援者研修会」を開催しました。
 - ・ 実施日：2025年10月10日(金)1400-1600
 - ・ 場所：三田市まちづくり協働センター
 - ・ 講師：大谷美穂さん(スクールカウンセラー)



ネットワーク づくり

- ・ 「裏六甲子ども居場所ネットワーク」を継続させ、公式LINEを活用した助成金情報や寄贈食材の分配案内などの情報を定期的に配信しています。
- ・ 市内食品工場やスーパーマーケットで発生した管理期限後食材を譲り受け、子ども食堂をはじめとした裏六甲エリアで対人支援に取り組む団体と分かち合う仕組みを作り、運用しています(三田市・企業との三者協定)
- ・ 三田市内に登録するNPO法人(約50法人)を対象に、お互いを知ることを目的とした「NPO交流会」を開催しました。コロナ禍以降に設立した法人も20%近くあり、それぞれの「違い」を知ることができました。
 - ・ 日時：2026年1月22日(木)1700-1900
 - ・ 場所：三田市まちづくり協働センター
 - ・ 参加者：NPO法人 18法人32人
行政関係 2課4人





1. 事業の目的・趣旨

洲本市には、子育て世代が日常的に集い、相談や交流ができる「子どもプラザ」機能をもつ拠点が十分に整備されていません。核家族化や移住世帯の増加により、子育ての孤立が課題となる一方で、目的を明確にした支援機関には「行きづらさ」を感じる声もあります。本事業では、親子が自然に集い、楽しみながらつながり、必要なときには相談できる“開かれた子どもプラザ”の実現を目指し、イベント・体験活動・学びの場・日常的な居場所づくりを総合的に展開しました。

2. 事業実施内容

(1) 地域イベントの開催

子どもプラザみらいえ「みらフェス」夏まつり・秋まつり

親子で楽しめる縁日、ワークショップ、子どもマルシェ、子育て相談、音楽・パフォーマンス等を実施。

- 夏まつり(7/26): 来場者 約 100 名
- 秋まつり(11/8): 来場者 約 120 名(子どもの人権展・音楽祭を同時開催)

(2) 体験ワークショップ

「アーティスト×みらいっ子(ららプロ for Babies)」(9/4)

未就学児と保護者を対象に、音楽を通じて親子の感性とふれあいを育むプログラムを実施(参加 8 名)。

(3) 保護者向けセミナー

子育てママ応援セミナー(7/12)

「心の回復力(レジリエンス)」をテーマに、子育て中の不安やストレスと向き合うための学びの場を提供(参加 19 名)。

(4) ママカフェの開設

ママカフェ YORISOI 米田家(9 月～)

助産師・保健師が関わる、妊娠期から就学前までの母親が安心して立ち寄れる居場所を定期開設。

利用者数: 9～12 月 39 名



3. 事業の成果

- イベントと日常的な居場所を組み合わせることで、親子が自然につながり、相談できる「子どもプラザ」機能を地域に実装できた。
- 子育て世代同士の交流が生まれ、孤立感の軽減や情報共有につながった。
- 子どもの人権や保護者の心のケアなど、子育てを地域全体で支える意識の醸成に寄与した。
- 継続的に利用できるママカフェの開設により、日常的な相談・見守り体制の基盤を整えた。

4. 今後の展望

本事業を通して、親子が「支援を受けに行く」のではなく、日常の中で自然につながり合う関係性が生まれつつあります。「助けて」と言いにくい社会的な空気の中でも、偶然の出会いや参加体験が、必要な支えにつながる“必然”となることを私たちは大切にしてきました。今後は、イベントと日常の居場所をさらに連動させ、子育て世代だけでなく地域住民や若者、多様な主体が関わる共助の輪を広げていきます。子どもプラザ機能が特別なものではなく、地域の日常の風景として根づく共助共生社会の実現を目指します。

中間支援活動助成（基本事業）

特定非営利活動法人兵庫SPO支援センター

事業名：働いている人・遠隔地の人等多様な人のためのNPO等支援窓口

－ 淡路島の間接支援 －

1. 事業概要

平日（月・金）及び日曜・祝日を含め、相談者の都合に合わせて、洲本を拠点にしながら淡路島島内の出張相談に対応し、ネットワークの構築、情報提供、人材育成、書類作成指導等を実施する。また、淡路市においては淡路市立図書館内でも相談対応に応じる。

2. 事業項目と成果

① 相談業務（相談拠点及び出張相談）12月末現在

相談	情報提供・ネットワーク	人材育成	書類作成指導	休日相談	出張相談
10	2	2	2	5	5

（相談事例）

・古津路土地組合が管理する土地の部分売上の課題が出てきて、法人化の相談があった。（南あわじ市）

・大学院生が、学生起業家としてまちの活性化に絡めて、兵庫県の起業助成金申請のアドバイスを行い、申請が受理された。（洲本市）

・「こども食堂」をやりたいとの相談があった。淡路島で最初の「こども食堂」の事例を作った当団体の経験とノウハウを提供できた。（南あわじ市）



② 図書館との共催事業「まちづくりネットワーク交流会」

図書館をまちづくりに活かし、市民とのつながりをつくる場として、図書館に地域や社会で活躍する人や団体をゲストに呼んで開催する共催事業。

・洲本市立洲本図書館 11月23日（日）「元素カルタイベントー知るって楽しい！学ぶって面白い！」をテーマに小学生時に元素カルタを作り起業したレウォン氏を講師に講演とカルタ大会を実施。（参加者29人）

・淡路市立東浦図書館 12月13日（土）「ことばと感謝とつながりが“立ち上がる力”を育ててくれる」をテーマに社会福祉士の新崎江里さんが講演。（参加者18名）

アンケート 回答者11人 満足11人（他の質問回答省略）



③ 調査研究「図書館×まちづくり」 淡路市立図書館パートナーの会の現状と課題及び今後の方向性について調査・アドバイス

「図書館×まちづくり」の実践団体として2年前に発足した「淡路市立図書館パートナーの会」これまでの取り組みを振り返り、今後の方向性を考える会議に同席。3月1日に「市民協働のあり方トークセッション」を行う。



NPOと市民の”資金の縁結び”の仕組み『共感寄付プログラム』による NPOの資金獲得支援

● 事業の目的

『共感寄付プログラム』は「誰かの役に立ちたい」という市民の思いを「寄付」で形にすることが出来、参加した団体は活動資金を獲得できるという資金の縁結びが出来るプログラムである。本プログラムをさらに拡大・発展させることにより、NPOの寄付募集の支援と市民の寄付促進、さらには寄付文化の醸成を実現したい。

● 事業の概要

公益財団法人の税制優遇資格を活かした『共感寄付プログラム』は、2012年の前身（市民活動センター神戸）から累計3,278件69,306,986円の寄付を集め97事業に52,665,365円（実数63団体）に助成した。近年活用が広がっているクラウドファンディングにもこの仕組みは似ているが、①兵庫県内のNPO支援に特化している点、②寄付控除が使える点、③公益財団の信頼性の点、④寄付集めという個別利益を超え市民セクター全体としての地位向上・認知度向上をNPO全体で目指す狙いが仕組みの基盤である点、で差別化をはかっている。

プログラムの知名度が低く、社会の役に立ちたいという市民の思いを実現するツールが市民のもとに届いていないため、チラシ配布・SNS発信・メディア取材・イベント出展等の方法で知名度アップを目指す。また参加団体どうしの連携も重視しており交流会も実施する。

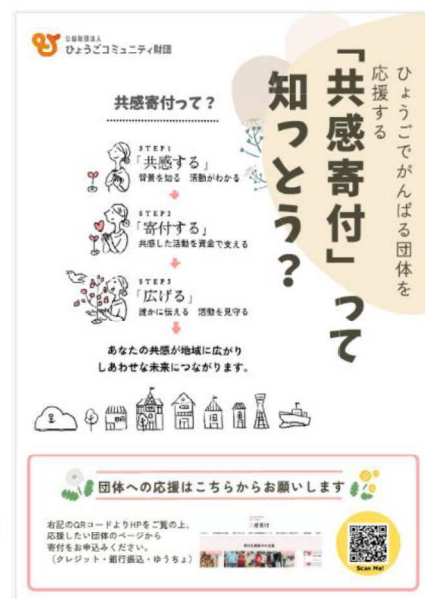
● プログラムの状況

参加団体数：30団体（前期9団体から大幅に増加している）

寄付の実績：380件 17,142,400円（2025.4.1～2026.1.9の累計）

● 助成を受けて行った主な事業内容

- ・ 広報チラシ作成 県内140か所に配架依頼（2回発送済み）
- ・ 参加団体先への訪問(4団体実施) インタビュー記事をHPで公開
- ・ 2025/5/31.6/1 神戸レインボーフェスタ2025 ブース出展
⇒来場者1万人以上のイベント チラシ300部配布・活動の宣伝を行った
- ・ 2025/10/4 市民活動大交流会
⇒助成先団体・選考委員・当財団理事の交流会を実施し40団体70名ほどが参加団体の活動報告、講師によるファンドレイジング講座、交流会を行った
- ・ 2026/1/15 共感寄付参加団体座談会
⇒参加団体同士の寄付集めに関する情報交換の場を設定、気軽に相談できる場の提供
- ・ 2026/2/12 第7期新規参加団体向け説明会
⇒新規参加を検討している団体向けに合同の説明会を予定、その後個別相談を受ける予定



チラシ作成、各所へ配架依頼



2025.5.31/6.1 神戸レインボーフェスタ2025出展



2025/10/4 市民活動大交流会実施



参加団体へ訪問取材・記事をHPに掲載

障がいのある子どもと

よければ いっしょに 家族写真

NPO 法人 ビレッジ

2025年12月20日(土)

2026年1月17日(土)

2026年2月21日(土)

@西宮市総合福祉センター

2026年1月24日(土)

@はんしん自立の家



これまでに撮影した「家族写真」や撮影の際の様子は
こちらでご覧になれます▶



企画意図

- ▶家族写真が飾られた家の子は「自分は大切にされている」と自己肯定感が高まるという心理学者の研究結果がある。
- ▶障がいのある子どもにとっても将来に向けた自立訓練、職業訓練に取り組むうえで自己肯定感は重要となる。
- ▶家族写真は親にとっても、ふと見て力をもらえたりする。
- ▶動きが大きい、初めての場所が苦手、じっとしていることが難しいなど、子どもの行動特性から通常の写真撮影スタジオで家族写真」を撮影することを諦めている家族が多い。
- ▶家族写真を安心して撮影できる機会を作り出し、家族の幸せを増進する。
- ▶勉強会などにはなかなか参加してもらえない家族との接点をつくり助け合えるネットワークの拡大につなげたい。

撮影

水本光：介護福祉士・フォトグラファー。
趣味のカメラで役に立つ事をしたいと勤務していた介護施設の利用者さんの写真撮影をした経験をきっかけにフリーのカメラマンとしても活動を開始。2023年には出張型の写真館のんびり写真館を立ち上げ、福祉施設やホスピスなどを中心に出張写真館を実施。

感想

- ▶家族みんなで写真を撮る機会がなかったので今回、素敵な写真を撮っていただいて本当に嬉しかったです。カメラマンさんやボランティアの方々が子どもの笑顔を引き出そうとしてくださってありがたかったです。とてもいい体験できました！
- ▶過去にも何度も他社で撮影しましたが娘の障がいを「どうしてこうなったんですか？」って聞かれて返事に困ってました。
- ▶のんびり撮影していただきました！あとスタッフの方みなさん男性で、ふわーっとした雰囲気空気感が良かったです。
- ▶息子は視覚的に流れが分かったとスムーズに行動できます。なので、次回からは『①写真撮る→選ぶを3回する、②みんなで写真をあらず、③お金を払う』を前持って具体的に伝えてから参加させてもらおうと思いました！
- ▶子供気持ちを優先して、嫌がらずに良い表情で撮影できるよう色々と考えてくださって柔軟に対応していただけた。
- ▶障害のある兄のペースを保ちながら妹の気持ちも高めていただいてとても素敵な兄妹写真が撮れました。
- ▶福祉センターは慣れた場所で、いつも行ってる所だったので息子の不安は少なかったと思います。普通にスタジオとかに行行って写真を撮るとかは難しいな思ってた諦めていましたが今回このようなイベントがあると知って「これならいけるかも！」と思えて参加させてもらいました。とても満足です。
- ▶一般の写真館では、子どもの特性に気を遣い、親も子どもも疲れてしまうことが多いですが、こちらは短い時間でリラックスして撮影していただくことができ、よかったです。

⇒満足度4.92点 (5点満点)

⇒次回もぜひ参加したいと答えた人は92.8%

令和7年度ひょうごボランティア基金助成事業報告書

団体名：NPO 法人ふえっこ自然村

(1) 概要

私たちは週4日（火～金）自然豊かな里山のフィールドで活動しています。開校から3年が経過して、野外での実践的な活動だけでなく、読み書き・計算などの基礎的な学習へのニーズが年々保護者やスタッフ、子どもたちから求められるようになりました。そのような現状を受け、2025年度4月より、週に一度地元の公民館をお借りし、学習プログラムを実施しています。午前は自主学習の時間、午後からは学年別の授業や探求の授業を行っています。

(2) 活動内容

- ① 開催日時：毎週月曜日（10：00～15:00） ※祝日・春夏冬休みはお休み
- ② 回数：31回/年間
- ③ 運営：講師1名、スタッフ1名
- ④ 対象者：小学校1年生～中学校3年生（ふえっこ楽校在校生）
- ⑤ 内容：国語・算数・英語などの自主学習サポート、AIを活用した探究学習など

(3) 事業の成果と展望

読み書き・計算など基礎的な学習習慣が身につく場所として地域に定着することで、学校以外の学びの選択肢として取り組みました。また、国語のYoutuber講師のOK先生を講師に毎回お招きし、勉強する楽しさや、AIを使った探求学習の面白さを子どもたちに伝えることで、基礎的な学習の先にある学ぶことの奥深さ・本質を子どもたちに知ってもらう環境を設けました。将来的には各学校区の先生方や教育委員会との連携も視野に入れつつ、こどもたちの興味に寄り添った学習サポートをすること、多様性のある学びの場を作ることを目指します。事業が安定してきたのちは、授業料や運営費用を参加者のご家庭からいただくことも検討しています。

(4) 活動の様子



親子の絆を深める多様な「ワークショップ体験」及び「親子スポーツフェスタ」

私たちは未来ある子どもたちのためにできることを考え、子どもまんなかの社会を実現することをビジョンに掲げている非営利の一般社団法人です。親子向けイベントやスポーツイベントの開催、不登校児童生徒の支援などの事業を軸に明石・神戸エリアで活動しています。



“ Every child is a treasure for us. ”

「すべての子どもたちは私たちの宝物です」



●ひょうごボランティア基金助成における事業報告

当法人が今回の助成金を受けて実施する事業はすべてのプログラムが親子参加型となっており、親と子が一緒に参加することが大きな特徴です。他団体などが実施している多くのイベントなどでは子どもが参加してその様子を親が見守るというものが多いですが、「子供が輝くにはその近くにいる大人が輝く必要がある」という考えのもと、子どもと大人と一緒に参加することで家族でのかけがえのない時間を共有し、共に楽しむ空間を創り出しています。どのプログラムも普段の日常ではあまり体験できない内容で構成しており、ここでしかできない多様な体験を通して、子どもたちの心身の成長をサポートし、親子の絆を深めることができました。

下記の10事業を企画・運営し、延べ人数300名程度が参加したので、写真と共に報告します。

「おやこ薬膳料理教室」 「親子波動体験 ～親子で学ばかんたん量子力学～」 「親子 SUP 体験」



「親子マインドフルネス」 「親子キャンプファイヤー」 「親子スポーツ体験」 「親子ハイキング」



「親子スポーツフェスタ」 「ベビタッチ体験会」 「親子麺作り体験」



●成果と今後の課題

当事業を通して、親子の絆を深めると共に、人と人が繋がる時間・空間を創出しすることができました。また誰もがスポーツや芸術、学びを楽しむ場所を提供し、生き生きとした街づくりに貢献することができました。課題は企画によって参加人数の差があったので、次年度以降はより多くの方にこの素晴らしい機会を提供できるよう努めたいです。私たちはこれからも地域や社会、そして「未来ある子どもたちのために」心を込めて活動を続けてまいります。

団体名：NPO法人ふりかけ

事業名：つどいの場の創設事業

1. つどいの場を実施した経緯

我々「ふりかけ」はメイン事業として生活支援サービス事業（買い物や通院支援等）を実施していますが、この活動は日常の小さな幸せを実現することです。ある時、それだけでは不足ではないか、絶対必要な支援内容だけでなく、何か楽しんでもらうイベントがあっても良いのではと考え、つどいの場を月に1回実施することにしました。

2. R7年度のつどいの場の実施状況

	月日	内 容	開催場所	ランチ場所	参加者数	支援者数
1	4月20日	フラフェスタ2025鑑賞	国際学習塾	ナポレオン	12	6
2	5月31日	播中公園バラ園鑑賞	播中公園	現地で弁当	19	7
3	6月22日	平池公園大賀ハス鑑賞	平池公園	コメダ珈琲	11	5
4	7月29日	手芸教室	社福祉C	現地で弁当	10	5
5	8月24日	木管アンサンブル鑑賞	社福祉C	現地でパンV	11	6
		9月は休み				
6	10月28日	コスモス&オカリナ鑑賞	小野ひまわりG	ピンクハウス	13	5
7	11月29日	ハンドベル鑑賞	社福祉C	現地でピザV	18	7
		12月は休み				
8	1月10日	とどろきカフェ鑑賞	とどろき荘	和がや	12	6

本事業は丸2年が過ぎましたが、毎年、企画・構成担当者を変えながらいろいろな企画を考えています。



今年の5月の播中公園バラ園の鑑賞では、場所取りが良くバラたちの風下でお弁当を食べたので、食事中ずうっとバラの香りが漂っていて、本当に幸せな気分になりました。今でもあの時のバラの香りが蘇ってきます。

8月の木管アンサンブルでは社吹奏楽団から8人の演奏者が来てくれて、懐かしの青春ソングを演奏してくれました。参加者さんたちの感想は、「懐かしい曲ばかりで若返りました」、「昔を思い出した」等、改めて音楽の力を思い知らされました。

11月のハンドベルでは参加者さんや我々スタッフも含めてハンドベル体験をさせてもらい大いに楽しみました。



不登校や発達障害に悩む子どもたちを孤立させない居場所づくり

放課後の居場所 ひまわりの森

1. 当団体について

本事業の目的は、不登校や発達障害で悩む子どもたちの居場所を作ることによって孤立させない支援を構築する事である。三田市狭間が丘の自宅の一室での学習支援活動を通じて、学校に行きたいけれど、学びに不安がある、友達との関係性に不安がある、家庭環境が不安定で困窮しているなど、小さな躓きをきっかけに不登校となる児童、生徒の様子を目の当たりにしてきた。こうした子どもたちに学習機会及び学習支援を提供することで、躓きの原因を無くすとともに、近隣の博物館とも連携し、子どもが持つそれぞれの得意分野に気づき、育む機会を提供する。ひまわりの森に来て過ごす時間を通じ、自己肯定感を少しでも高めるとともに、それぞれのペースに合わせ、社会の中で生き抜く力を育むための場作りを行っている。



2. 主な活動

1 定期学習支援活動	2 ひまわりの森 Friday	3 ひまわりマルシェ
実施日: 毎週月・水・木 時間: 16:30~19:00 対象: 小学生~高校生 ・学校の宿題や学習のサポート ・大学生ボランティア参加 →個々の理解度に合わせた 学習支援を実施 ・学習面だけでなく、安心して 過ごせる居場所づくりを重視	実施日: 毎週金曜日 時間: 13:00~19:00 対象: 小学生~高校生 (保護者参加可) 【13:00~】保護者個別相談プログラム 保護者相談会 親のおしゃべり会 不登校児への対応・相談 【15:00~】子ども向けプログラム 学習支援、野外活動、 自由プログラム (折り紙・絵画・工作など)	実施場所: エキマエアキチ ・子どもたちと一緒にイベント を作り上げる ・緑日、ワークショップの実施 ↓ ・チャレンジ精神 ・コミュニケーション能力 ・思考力 を育成する

月・水・木曜日には公共施設で学習支援活動を行い、不登校や発達障害のある子どもたちが安心して学べる環境を提供している。

金曜日は地域再生事業の試験的運営拠点「エキマエアキチ」をお借りしてひまわりの森フライデーを開催、子どもマルシェや親の会などイベントを多数行っている。

★マルシェ:年間10回程度

★親の会:毎月第1金曜日

2. 成果・今後の目標

地域活動への参加や、子どもマルシェ・ワークショップなどの体験を通じて、これまで「参加者」の立場であった子どもたち一人ひとりが、徐々に「運営に関わる側」としての役割を担うようになってきている。悩みや困りごとに対して不満を抱くことは容易である一方、それを自分の意見として言語化し、改善に向けた行動へとつなげていくことは決して簡単ではない。本活動では、子どもたちが関わる小さな「社会」の中で、自分自身にも環境を変えていく力があることに気づく経験を積み重ねてきた。これにより、主体性やチャレンジ精神、他者と協力する姿勢が育まれつつあり、自己肯定感の向上にもつながっている。また、悩みに寄り添い「心の支え」となることを目的とした小さな学習支援活動は、新たなスタッフやボランティアの参画を得て「ひまわりの森」として発展し、地域に根差した支援の場として認知され始めている。

今後は、「あの団体に相談すると力を貸してくれる」「心強い存在だ」と地域から信頼される団体となることを目指し、支援の質と継続性をさらに高めていく。そのために、これまでの相談内容や支援事例、子どもたちの変化や成長の過程をデータベースとして蓄積し、活動の振り返りや改善、よりの確な助言につなげていく仕組みを整えていく。これにより、個別の支援にとどまらず、今後の活動全体に広がりや深みを持たせていきたいと考えている。

「ひまわりの森」が単なる居場所に留まらず、地域における実質的な支えとして機能し続けられるよう、子ども・保護者・地域と共に歩む活動を継続していく。

若者に特化した中間支援事業 “Ux Campus”

R7年度 中間支援活動助成（基本事業） 一般社団法人みくもや

1. 事業が目指すところ

背景

神戸市では、地域コミュニティへの主な参加者の高齢化が進んでおり、若い世代の地域の担い手の発掘・育成が急務となっている。また、市内には中間支援組織が複数ある一方、学生や若者に特化した支援組織は数少ない。そのため、若者が地域に参画する機会や選択肢が限られていたり、地域の団体が若者を活動に巻き込みたくてもその方法が分からず、世代交代が進まないという現状がある。そこで、本事業では、若者を地域に巻き込むことに特化した中間支援事業を行うことで、若者による地域活動の参画を促進する。

活動拠点「ユニット422」をベースとした地域活動の創造と伴走支援

当法人は2024年11月より、神戸市長田区に「ユニット422」と名付けた活動拠点をオープンした。この拠点では、一箱本棚オーナー制度を活用した私設図書館や子どもの居場所としての駄菓子屋、飲食店営業許可も取得したシェアキッチンなどの多様な機能を持たせることで、地域の人々が様々な形で活動へ関心を持ち、関わるができるようになる入口を設計している。現在は私設図書館の運営に関わる大学生や、駄菓子屋の運営に関わる高校生ボランティアチームなどが存在し、少しずつではあるが、若者が地域に関わるきっかけを生み出している。

2. 令和7年度 活動内容

※代表的なものを抜粋

2-1. 相談業務

- 子ども食堂を運営する団体から学生ボランティアの受け入れ等についての相談対応
- 長田区役所地域協働課より長田区政80周年イベントにおける高校生企画の伴走支援
- 長田商業高校生による株式会社NAGAZONのイベント企画・広報サポート

2-2. ネットワークの構築・情報提供

- 市内外の中間支援組織とのネットワーク構築の一環として、ひょうご中間支援ネットワークの世話団体を務め、交流会の企画を担当
- NAGATA居場所ネットワーク会議への参加、企画運営サポート
- NPO法人アクションポート横浜と協働したNPOインターンシップラボの企画運営

2-3. 人材育成

- 昨年から継続してユニット422を活動拠点とした学生チーム「学生422」を運営した。学生422が獲得した助成金を活用し、子どもを対象としたイベントの企画実施や、長田の情報を集めたZINEを制作するプロジェクトなどをコーディネートした。

2-4. 書類作成指導

- NPO法人Dive in! のNPO法人設立書類作成相談対応
- NPO法人NOURISMのNPO法人設立書類作成相談対応



3. 成果と課題

成果：ネットワーキングや相談業務を通じて、活動拠点であるユニット422周辺の高校（長田商業高校、長田高校、兵庫高校、彩星工科高校等）や地域プレイヤーとの繋がりが強化できた。また、拠点が持つ機能が充実し、本棚オーナー自らが読書会、近隣のゴミ拾いイベントなどを主催するケースが増え、地域活動の入口としての役割を果たすようになってきた。

課題：一方で大学生が関わる余白はまだ多く残されているように感じる、各大学（特にボランティアセンターや地域連携部署等）との連携、そのための広報強化が必要である。

うずらの遺産を活用した周辺地域活性化事業

特定非営利活動法人みらプロ

■ 目的

- ・ 加西市に残る旧姫路海軍航空基地があった鵜野飛行場跡を活用した取組による地域活性化を目指す。
- ・ 多様な観点での学びに関するイベントを企画、造成することにより、多様な層の来訪者を獲得する。
- ・ 地元団体や学校、企業や行政との協力による持続可能な事業運営体制を構築する。



加西市地域活性化拠点施設

「sora かさい」メイン展示：戦闘機『紫電改』実物大模型

うずらの遺産

旧姫路海軍航空隊があった鵜野飛行場跡に残る滑走路跡や防空壕などの戦争遺跡をより一般的な呼称として「うずらの遺産」と称する。



■ 協力団体

兵庫県立北条高等学校
かさい熱気球サポータークラブ
加西市地域活性化拠点施設 sora かさい
神姫バス株式会社（sora かさい指定管理事業者）
一般社団法人加西市観光協会

■ 実施事業

○気球ガイド&ミュージアムガイド



気球搭乗前の説明
（高校生が対応）
約100名が搭乗

気球搭乗イベント@うずらの飛行場滑走路
空中から飛行場の規模、大きさを知る
ミュージアムガイドで飛行場の歴史を知る

○講演会「うずらの飛行場と紫電改」



川西鵜野工場で製造された「紫電改」
地元の人々が造った機体と技術を解説
海軍航空戦史研究家吉野泰貴氏招へい

○うずらの戦跡ガイド



高校生ガイドが戦跡をご案内
阪神地区及び県外からの参加も多数あった。
北条高校うずらの班活動報告会の実施

■ 地元団体・企業との協力関係構築

- ・ 北条高校探究活動（弊NPO代表非常勤講師）を通して、戦跡について学び、ガイド内容の自主構築を推進
- ・ 高校生は戦跡ガイドに加え、sora かさい内の遺書朗読にも挑戦
- ・ 子供向け読み聞かせや紙ひこうきワークショップなど、高校探究班との協力関係の拡大を図った。
- ・ 気球イベントを手掛けるかさい熱気球サポーターズクラブとの協力関係構築により気球係留・搭乗イベントを実施できた。
- ・ 神姫バスや加西市観光協会とのイベント開催時の施設使用など支援と共に、広報などで協力体制を発展させることができた。

■ 成果と今後の展開

- ・ 今回の気球イベントを通してたくさんの方々に sora かさいに来場頂き、戦跡の歴史についてご理解頂けた。また、ゲスト専門家による高校生への専門知識のレクチャ実施
- ・ かさい熱気球サポーターズクラブや北条高校との協力関係構築で新たな取組み（気球）を推進できた。
 - 気球を使った戦跡の見せ方や新規集客で、加西市への来訪増や普及・啓発に供することができた。
- ・ 本事業の成果を活かして、今後も従来からの講演会やガイドと共に、エンターテインメント性を取り入れた新たな取組の磨き上げについて、市民や地元事業者中心の持続可能な協力体制にて推進する。



ミュージアムガイド



ゲストレクチャ

以上

事業名 多様性とにぎわいのある、豊かな地域づくり

◆目的 竹林整備により、地域環境の改善の他、共同作業による顔の見える関係性構築の一助ともなり、地域で安心して生活できる基盤を調える。また、竹林整備で伐採した竹を地域資源として活用し、多世代の交流拠点としての神社の役割を復興させるため、竹の利活用方法の紹介、鈴緒や子ども神輿の作成に多くの人が参加するきっかけをつくる。本事業を通じ、多様な関係人口の増加、地域ぐるみの子育て環境の整備、地域の祭りににぎわいを取り戻すことで、地域の活性化を図る。

◆事業概要

【広報】チラシ作成（配布先：図書館、公民館、子育て支援センター、店舗）まんまるウェブサイト、SNS

- 竹林整備 ・電動工具を使わず、ノコギリで竹林整備
- ・整備で出た竹を利用して、竹パンづくり等
- 鈴緒づくり ・精麻縫り体験
- 子ども神輿づくり ・竹や森の材料を集めて、骨組みづくり、飾りつけをし、子ども神輿の作成



◆成果と課題

SNSでの告知、チラシ配布により、淡路島島内外へ広く参加を呼びかけ実施。風通し、見通しのよい、安心して暮らせる地域環境づくりへの一步を踏み出すことができた。電動工具を使わなくとも、竹林整備が可能であることを実証し、参加者から自分の家の周りでも整備に取り組みたいとの声が挙がった。整備した竹の利活用方法を紹介し、竹林整備が、作業ではなく楽しんで参加できる交流の場となった。多世代の交流で関係人口を増やし、伝統行事への関心を高め、地域資源の再認識の機会ともなった。他の地域の伝統行事についても話題となり、その活性化と継承が地域の活性化の課題であることがわかった。

◆今後の展望

今回の助成金で購入した道具類を活用して、今後も地域内の他の竹林整備を進めていく。本事業で、竹の活用法をいくつか提案できたが、使用する竹の量は限定的であった。そのため、伐採した竹をより多く利活用できるように、無煙炭化器やチップターの購入やレンタルの検討が必要。また、その設備投資費用の捻出について検討が必要である。

今回の作業場に椅子などの準備がなく、急遽コンテナで対応したが、高齢者でも活動に参加しやすくなるように、公衆トイレの設置やベンチの増設などを地域で検討するとともに、行政にも協力を仰ぎ、にぎわいのある地域になるよう今後も活動を続けていきたい。

YOU“地域連携”のための研修会～多職種集まれ！～ 実施報告書

所属: YOU 医療保健福祉研究所 地域調査研究センターYOU

報告者名: 所長 出口 翔太

【目的】

地域包括ケアシステムの推進に伴い、医療や福祉職の連携が進められていますが、業務時間の制約から詳細な連携が難しいと感じています。本事業は対面式で実施し、連携につなげ地域のレベルアップを図り、職種や世代を問わない交流の場の推進を図ります。



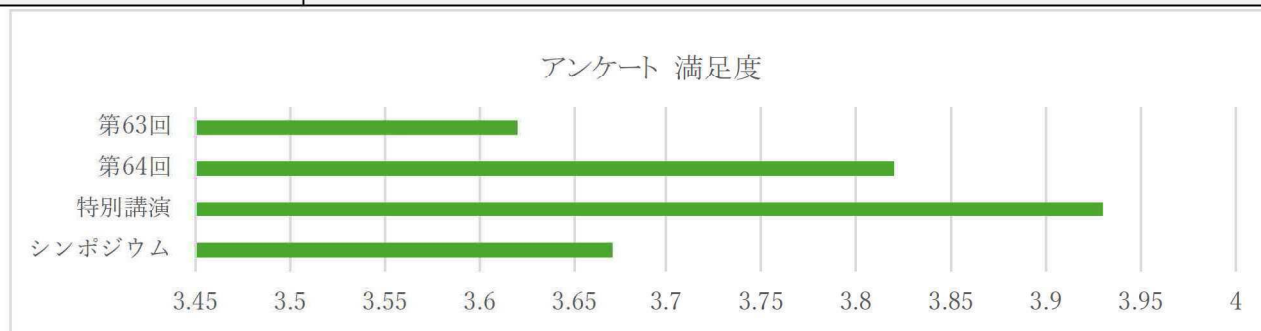
【開催概要】

《会場》 東リ いたみホール 《時間帯》 18:30～20:00 《形式》 対面

《参加対象》 地域で働く医療福祉職や地域住民

〔職種〕 介護支援専門員、薬剤師、歯科助手、社会福祉士、精神保健福祉士、保健師、福祉用具専門相談員、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、生活支援員、施設管理者、保育士 など

回/日程	概要
第63回 5/14(水) 18:30～20:00	『描画表現から自分を理解する』～心理テストを活用して～ 外部申込数:18人 参加総数(法人スタッフ含む):23人
第64回 7/16(水) 18:30～20:00	『その紙パンツ、本当に合っていますか?』～在宅現場で迷わない 排泄ケアの選択と実践～ 外部申込数:20人 参加総数(法人スタッフ含む):25人
フォーラム2025 11/30(日)9:30～12:00	『発達の特徴を知ると子育てがちょっとラクになる』～地域でつなぐ共生の輪～ 外部申込数:57人 参加総数:(法人スタッフ含む)57人 特別講演 および シンポジウムの開催
第65回 2月下旬予定	『(仮)カスタマーハラスメントについて』



【今後の展望】

アンケートでは、交流の機会を求める声が上がっており、より他職種や地域住民を含めた多世代交流の必要性を感じています。今後も自己研鑽と相互理解を推進し、つながりの広がる場への発展を検討しています。

【様子】



ユース世代主体のCafeむすびめを舞台とした“伝わる”地域共助モデル構築事業

ひょうごボランティアプラザ地域づくり活動NPO事業助成事業

本事業は、特別養護老人ホーム内に設置した「Caféむすびめ」を拠点に、若者と地域住民が日常的に関わり合い、「支え合い」を体験し、共感として広げていく地域共助モデルを構築することを目的としています。



夢ノ森伴走者CUE

あなたにできる、社会活動を始めよう

活動内容

- 世代間交流カフェ「Caféむすびめ」
毎週木曜日と第2・第4土曜日に営業。
高齢者、地域住民、若者が自然に交流できる居場所として運営。
- 防災講座の実施（年4回）
防災士を講師に迎え、避難所運営ゲームやクロスロードなどの体験型講座を実施。
- ユース世代主体の企画・発信活動
- CUEラジオ、記事制作をユース世代で行い活動の背景や想いを可視化。
- 発信・デザイン体制の整備
Canva等を活用し、若者が主体となって発信。テンプレートやデザインを統一し、活動の信頼性向上を図る。



活動の成果

- 高齢者の定期利用が増え、世代間交流の場として地域に定着した。
- 若者が企画・運営・発信を担うことで、主体性や発信体制の土台が整った。
- 地域行事や防災活動への協力を通じ、地域からの信頼が向上した。



今後の展望

今後は「地域になくてはならない拠点」としての定着を目指し、若者によるイベント企画や企業・団体との連携をさらに広げていきます。また、発信力を活かした共感型の参加・支援の循環を生み出し、助成金に依存しない自走型の地域共助モデルとして継続・発展させていきます。

事業名 こどもの日常を支える居場所づくり事業(2年目)

特定非営利活動法人ゆるり家

① 事業の目指すところ

居場所の欠如は孤独・孤立と深く関係しており、こどもが安心して過ごせる居場所は不可欠である。少子化や地域とのつながりの希薄化により、こどもたちが放課後に自由に過ごせる時間や場所は限られ、体験格差も大きな課題となっている。

本事業では「駄菓子や」という形を通して、保護者の申し込みを必要とせず、無料で利用できる居場所をつくり、こどもが自分の意志で来られる環境を整える。長年続けてきた古民家での居場所づくりから小学校の横での居場所づくりへとシフトし、居場所の存在をより身近なものとする。あわせて、大人がゆるやかに見守る中で自由に遊べる野外の冒険あそび場を開催するとともに、居場所に関する情報提供も行い、体験格差の解消を目指す。

② 活動内容(回数・人数は2025年12月末までの実績)

(1)放課後あそび場 おきらくだがしかし…

7月までは毎週水曜日放課後にゆるり家、月曜日放課後 つどいの館(まちづくり天満)で実施。

8月以降は毎週月曜日放課後につどいの館(まちづくり天満)で実施。

毎月第2水曜日(8月以外) フードパントリー「どうぞのはこ」&おにぎりの日 同時開催

おにぎり・お味噌汁、食料品、お菓子などの提供。おにぎりは子どもたち自身がつくって食べる。駄菓子やに遊びに来たついでにフードパントリーを利用することができることで、生活困窮の子やヤングケアラーの子も、自然な形で食料を持って帰ることが可能となっている。

(2)冒険あそび場ゆるぱ 実施場所:稲美中央公園

幼児や小学生の参加者を中心に、禁止事項をできるだけなくし、「自分の責任で自由に遊ぶ」ということを基本に何でも自由な遊びができる「冒険あそび場(プレーパーク)」を開催する。稲美町内外のグループに呼びかけ、共同開催することで、より多くの大人たちとこどもにとっての遊びの大切さを共有し、一緒に親子に野外での活動の場を提供した。

活 動 名	開催回数	参加人数(大人)	参加人数(こども)
放課後あそび場 おきらくだがしかし…	45回	152人	810人
冒険あそび場 ゆるぱ	3回	40人	67人



③ 事業の成果と課題、今後の展望

「放課後あそび場 おきらくだがしかし…」は、昨年度から始めた小学校のすぐ横のつどいの館での開催回数を増やすことで、子どもたちへの周知を図った。その結果、昨年度は50人に満たなかったつどいの館での参加者が500人近くに増えた。長年活動してきた古民家の活動拠点を手放すことで、こどもたちの行き場がなくなることや心配していたが、新しい場所もこどもたちに認知されたようで安心した。

「冒険あそび場 ゆるぱ」は、他団体との協働により、担い手の負担を軽減しながら開催することができた。冒険あそび場は、こどもが主体的に考え、安心して挑戦できる居場所として地域に大切な場であり、今後も他団体との連携により、無理ない形で継続できる仕組みを作っていきたい。

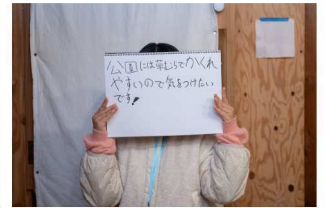
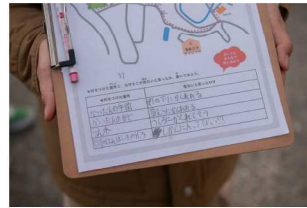
1. 事業概要

本事業は、地域の子どもたちが「取材する側」として町に関わり、大人や地域団体と協働しながら、地域の魅力や課題を自分たちの言葉で発信する。参加型・体験型の地域づくり事業である。第1回目として、塩屋地域をフィールドに、防犯パトロールや取材ワークショップを実施。子どもと大人が共に学び、考え、行動する場を創出した。本事業を他地域や他団体でも展開できるよう、プログラム制作にも取り組んだ。

2. 主な取り組み内容

●しおや防犯パトロール(キッズパトロール)

小中学生が「こどもパトロール隊」として地域を歩き、暗い場所や死角、人通りの少ない道などを確認。防犯マップを活用し、「なぜ危ないのか」を考えながら記録した。



●取材ワークショップ／キッズリポーター活動

取材の基本(見る・聞く・まとめる)を学び、地域活動を子どもたち自身が取材。記事原稿や写真としてまとめ、地域広報媒体『ふれまちしおや』へ掲載予定。

●出前授業プログラム作成／対話・取材ファシリテーション

「どうしたら安心して話せる?」「意見が違う時どうする?」などをテーマに、対話を通じて考える力・聴く力を育む勉強会を実施。学校や地域、他団体への出前授業としても展開していくためのプログラムを制作した。

3. 成果・参加者の声

「地域の他のイベントでも取材キッズとして参加してみたい」という声が多かった。次回は3/14に塩屋小学校で「垂水区総合防災イベント」があるそうなので、それを案内した。

4. 本事業の意義と今後

今後は、出前授業やワークショップの体系化、他地域や他団体への展開を視野に入れ、持続可能な地域づくりモデルとして発展させていく。

「LOVE防災」

1 事業が目指すところ

高齢者や障がい者など、災害時に特に支援が必要な人々を地域コミュニティ全体で支えることを目指しています。

2 事業内容

防災ワークショップ「避難所HUG」＋「防災学習」×20事業



3 事業成果

「防災意識の向上」「町内会防災活動の支援」「地域コミュニティの強化と連携」

4 今後の展望・成果の活用

今後の展望：東播磨地域の町内会、学校、企業、団体等への事業の展開と連携をより進めたい。

成果の活用：日岡山公園再整備事業賑わい拠点・管理運営事業の指定管理業務
地域連携・イベント企画、かこがわ市民団体連絡協議会の運営など地域協働の取り組みに活用したい。

